

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1986

10



聖徒の道

1986年10月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン
 十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー，ハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オクス，M・ラッセル・バラード

顧問：ジョセフ・B・ワースリン，ジョン・H・グローバーク，ジェームズ・M・バラモア，ヒュー・W・ビノック

編集長：ジョセフ・B・ワースリン

教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

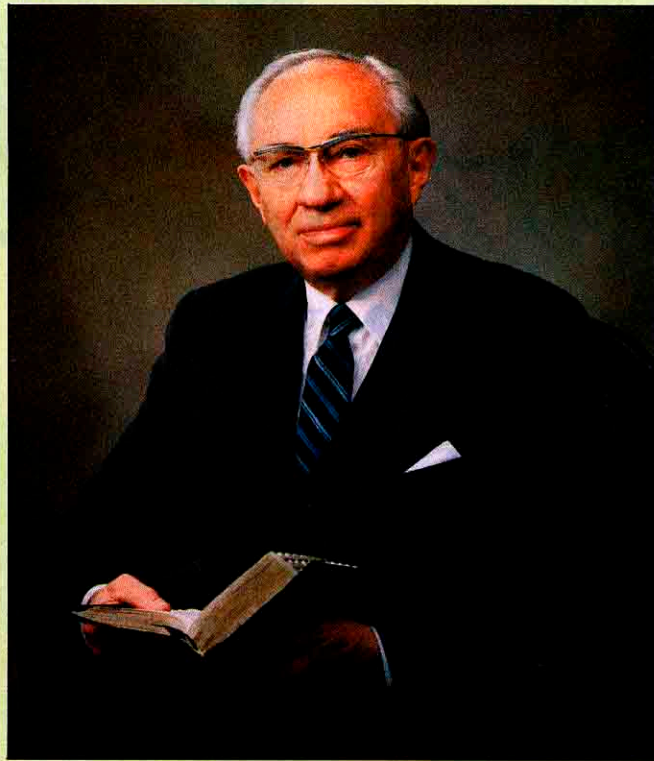
編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ダイアン・ブリンクマン

レイアウト/デザイン：シャリ・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン

マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン



p.6 ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長

聖徒の道 1986年10月号第30巻第10号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円, 大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA0507JA

Printed in Tokyo, Japan.

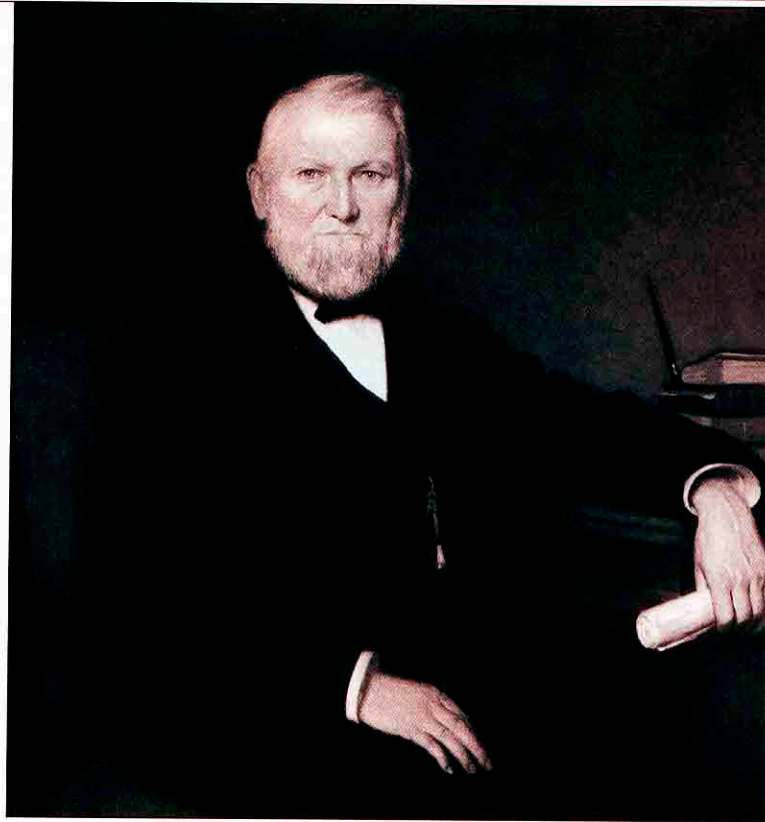
Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒150東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター/☎03-464-1617●「聖徒の道」についての配送のお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター/☎0427-96-2820

表紙：アダムとイヴ (デニス・スミス作，1970年)
 テンプルスクウェア北訪問者センターにある
 実物大の石こう像

● — も く じ

神の神権：ウイルフォード・ウッドラフ	表2
キリストにあって得る喜び	エズラ・タフト・ベンソン 2
ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長	ボイド・K・パッカー 6
ロビーを知って	レオナ・ヘイグ 14
質疑応答：メルケゼデク神権の権能の教義と聖書	ジェームズ・A・カーバー 16
新讚美歌——主は生きたもう	19
鳥のように空を飛ばたい	テリー・J・モイヤー 20
アイスクリームも音楽も	ジョアン・C・ハンセン 24
チャーチニュース、各地のたより	
子供のページ (別冊付録)	
10がつのカレンダー	1,8
風の音楽	ディーン・パッカー・ケリー 2
おもちゃばこ	6



予言者は語る

神の神権:ウイルフォード・ウッドラフ

聖なる神権は、神が地上の人間にそのみこころを伝え、その業を行なうための手段です。地上を訪れて人に語りかける天のみ使いたちは、地上に生きていたときに神権を保持し、尊んだ人々でした。また、人が地上に送られたときから神が人の救いのために計画されたことの中で、永遠の神権によらないものは存在しませんでした。これは世の贖い^{あがな}に至るまで変わりません。

あらゆる神権組織は権能を持っています。執事は執事としての権能を持ち、同じように教師も権能を有しています。予言者、聖見者、啓示を受ける者と同様に、彼らにも主の前に行って祈り、答えを受ける権能があります。人に示された儀式を受け、罪を赦され、贖い^{ゆる}を受けるのも

この神権によるのです。神権が明らかにされ、私たちの頭に結び固められたのはこのためです。

永遠の絶えざる神権が、生者と死者の命と救いに至る儀式を執行するために与えられたことを思い起こしてみましょう。地上の何人^{なんびと}といえども、聖徒たちを整えて奉仕の業をさせ、キリストの体を建てさせ、天の王国を築いてシオンを救うこと以外の目的で、この神権を行使することはできないのです。(エペソ4:12参照)

この同じ神権は幕のかなたにも存在します。そこでは忠実なすべての男性はそれぞれの定員会に属し、神権が取り去られることはありません。生きていたときに比べると、そこでは何千倍も福音を宣

べ伝える機会があります。しかし神殿の建設と死者のために施される儀式は、幕のこちら側に生きる者の責任です。やがて福音の調べを耳にすることのなかった先祖たちと霊界で会うことでしょう。こちら側にいるあなたが、死者のためのバプテスマを受けて先祖を救う権能を持っているのです。

何人も神の王国を打ち建てる以外の目的に神権を行使することがあれば、諸天は退き、神権の権能は消え去り、その人は暗やみに投げ出されて光の中を歩むことができなくなります。これはこの時代に限らず、いつの時代にも、あらゆる人の背教の引き金となるものです。(G・ホームー・ダラム編「ウイルフォード・ウッドラフ説教集」より)

キリストにあって 得る喜び

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

この記事は、1985年12月1日、ベンソン大管長が予言者に聖任されて初めてソルトレークタバナクルで話されたものを、ご自身が改作されたものです。

キリストなくして完全な喜びはありません。

前世において救いの計画が示されたとき、私たちは喜びの声をあげました。(ヨブ38：7参照)

天父の霊の子供として最初に誕生した長兄イエスが、私たちの罪の贖いをご自身から申し出てくださいしたのは、この前世においてでした。そのイエスは予任された私たちの救い主であり、「創世の前より殺さる」(モーセ7：47) 子羊でした。

ご自身を捧げてくださった御子なる神に、また御子を送ってくださった父なる神に、感謝いたします。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネ3：16)

この地上に来られる前、イエスは神として存在しておられました。天の御父はイエスにほかの何にもまさる高貴な呼び

名、キリストという名をお授けになったのです。私たちには、イエスがキリストであることを世に知らせる大切な使命を持った聖典が与えられています。モルモン経がそれです。モルモン経はイエス・キリストについてのもうひとつの証であり、「この地上で最も正確な書物」です。(モルモン経の序文)

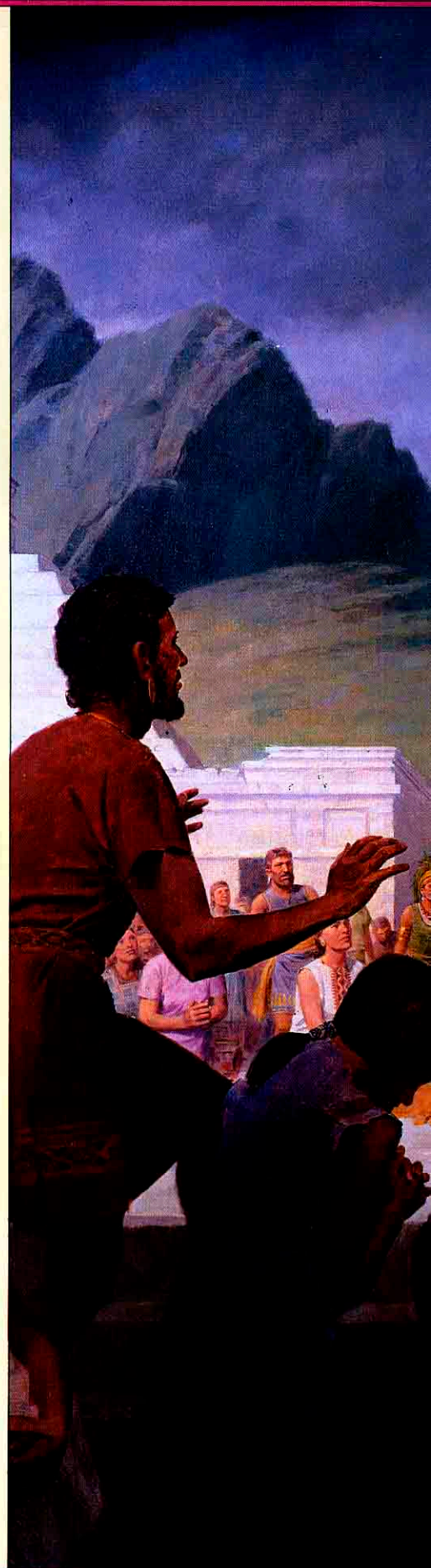
この書物の中に、次のような箇所があります。「全能の主キリストの御名によるほかには世の人に救いを与えることのできる名も道も方法も一切ない。」(モーサヤ3：17)

私たちは人間として、「キリストである私らの贖い主の岩を基に」(ヒラマン5：12) 生活を築いていかなければなりません。

私たちにとって大切な戒めは、キリストとその御父を愛することです。(マタイ22：37-38参照)

イエス・キリストは「創世の時から万物を造りたもうている造り主」(モーサヤ3：8)、天地の父です。

モルモン経の中で、ヤコブはこのよう





に言っています。「それであるから、このように神が命じたもうたから大地ができ、神が命じたもうたから人が造られたとするならば、何で神はそのみこころのままに大地に命を下し、または神の御手で造りたもうた地上の物に命を下したもうことができないであろうか。」(ヤコブ4：9) 造り主なる神は、今この瞬間さえもご自身の創造物に命を下しておられるのです。

アダムの時代から、すべての予言者がこの世でのメシヤの聖なる使命を証してきました。モーセは、メシヤの降臨を予言しています。(モーサヤ13：33-35参照)

「私たちがもうすでにキリストのことを知っていることと、またキリストが降臨したもう何百年も前に……キリストの栄光を待ち望んでいた」(ヤコブ4：4) ことをヤコブはモルモン経の中に書き記しています。

この同じ聖典の中に、キリストが霊体をもってジェレドの兄弟にみ姿を現わされたことが記されています。主はこうに言われました。「今汝が見るこの体はわが霊体なり。われはわが霊の体にかたどりて人を造れり。われは今わが霊のまま汝に現わると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん。」(イテル3：16) そして主は、それを実現されたのです。

イエスは、肉にあって天父の独り子でした。すなわち、天父により肉体を与えられたただひとりのお方でした。肉体の母マリヤは、御子を生む前も生んだあとも、処女と呼ばれていました。(Iニーフアイ11：20参照)

こうして、前世における神、全地の神、旧約聖書の中のエホバ、アブラハム、イサク、ヤコブの神、立法者、イスラエルの神、約束されたメシヤが、赤子となってベツレヘムに誕生したのです。

ベンジャミン王は、キリストの降臨とその使命について次のように予言しています。

「現在この世を治めたまい、また無限の過去から無限の将来に亘ってまします全能の主が権能をもって天から人間に降臨して土から成る身体に宿りたまひ、人々の間をめぐって病人たちを医し、死んだ者たちを活し、あしなえを歩かせ、めく

らに見えるようにし、つんぼが聞えるようにし、あらゆる病いをなおし、

また人の心につく悪鬼すなわち悪魔を追いはらうなどの大きな奇蹟を行いたもう時が遠からず来る。

そしてこのお方は誘惑を受け、肉体上の苦痛と飢えと渇きと疲労とを経験したもうが、これは死ななければ人間に堪え難いほどひどいものである。なぜならば、見よ、このお方は全身の毛孔から血を流したもうほどに、その民の罪悪と憎むべき行いのために苦痛を感じたもうからである。

このお方は神の御子、天地の父、創世の時から万物を造りたもうている造り主イエス・キリストと呼ばれ、その母はマリヤと呼ばれる。」(モーサヤ3：5-8)

主は次のように証しています。「われは父のみこころを行わんとてこの世に来れり。わが父のわれをつかわしたまいしは、われが十字架にかけられん……ためなり。」(IIIニーファイ27：13-14)そして主は、その言葉どおりになられたのです。

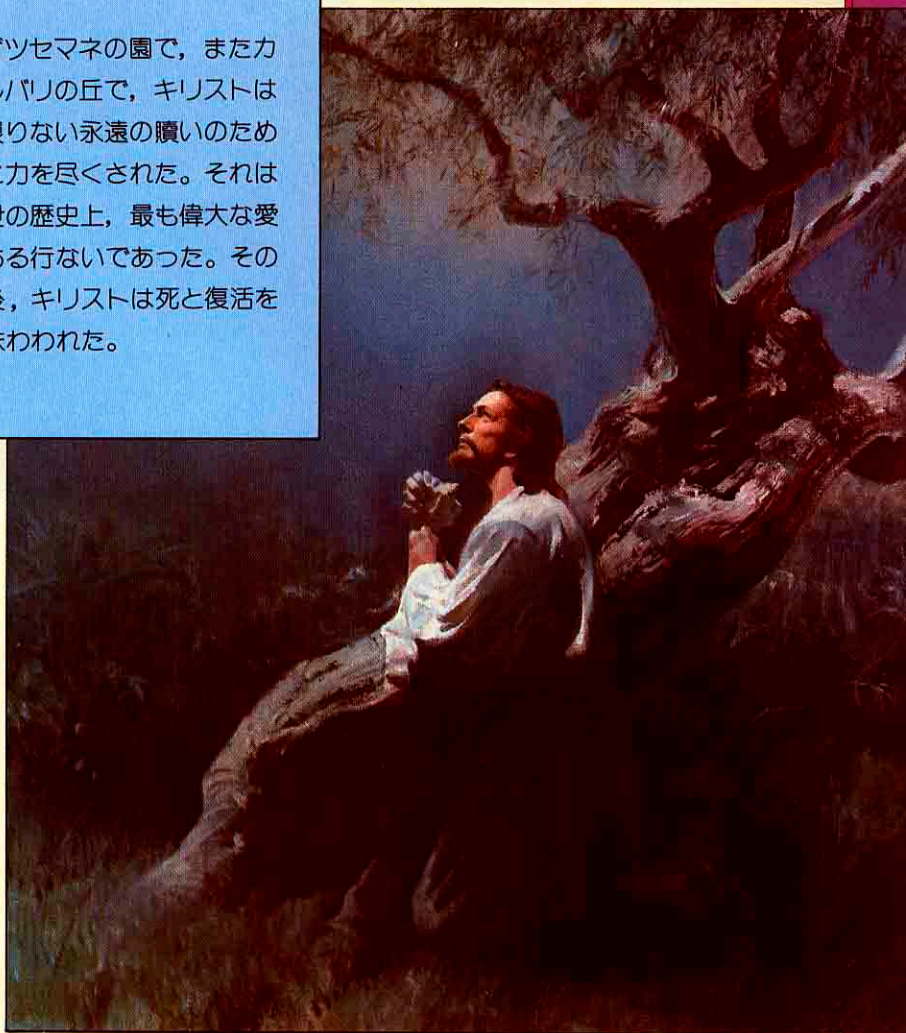
ゲツセマネの園で、またカルバリの丘で、イエスは永遠の限りない贖いのために力を尽くされました。歴史を振り返ってみても、これほど偉大な愛の行ないは見られません。その後、イエスは死と復活を味わわれたのです。

こうしてイエスは、私たちが肉体の死から、また福音の律法と儀式に従う人々を霊の死から贖う、私たちの贖い主となられたのです。

イエスが復活されたことは、聖典の中ではっきりと説明されています。モルモン経には、復活された主がアメリカ大陸に現われたことが記されています。アメリカ大陸の人々に、主はこのように言われました。

「見よ、われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり……汝らわが肋にその手をさし入れ、わが手足にある釘あとに触れて、

ゲツセマネの園で、またカルバリの丘で、キリストは限りない永遠の贖いのために力を尽くされた。それは世の歴史上、最も偉大な愛ある行ないであった。その後、キリストは死と復活を味わわれた。



われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ。」

2,500人もの人々が、ひとりずつ「その手をイエスの肋にさし入れ、またイエスの手足にある釘あとに触れた。」

そしてみな「一せいによばわつて、『ホザナよ。いと高き神の御名を讃美す』と言い、イエスの足下にひれ伏してイエスを拝した。」(IIIニーファイ11：10, 14-17)

キリストの回復された教会すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会において、主は回復の最初の予言者ジョセフ・スミスから現在の予言者に至るまで、ご自身とそのみこころを示してこられました。

予言者ジョセフはこのように言っています。「さて、この子羊に就きて為された様々の証の挙句、われらの為す最後の

証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。」(教義と聖約76：22-23)

では、私たちは何をしなければならいでしょうか。なぜあの博士たちに倣う必要があるのでしょうか。彼らは長い間キリストを探し求め、ついに見いだすことができました。私たちもそのようにすべきです。かの博士たちと同じように賢明であれば、今日でも主を探し求めるはずです。

「あなたたちは予言者たちと使徒たちが書き記したイエスを求めよ。」(イテル12：41)モロナイはこう勧めています。神はそのために聖典を、中でも求める人々がみなイエスがキリストであることを知ることのできるモルモン経を与えてくださっています。

予言者ジョセフ・スミスは「信仰講義」の中で、人が神を信じるために知っておくべき神の6つの神聖な属性をあげています。モルモン経では、キリストがそれらの属性をすべて具えておられることを証しています。

第1、神は創造主であり、万物を支えたもうお方である。ベンジャミン王はこのように言っています。「神が……万物を造りたもうたこと……全知全能であること……。」(モーサヤ4:9)

第2、神は慈悲、忍耐、善といったすばらしい特質を具えておられる。アルマはキリストが「恩恵、公平、真理、忍耐、憐み、寛容に富」んでおられることを証しています。(アルマ9:26)

第3、神は変わることがない。モルモンはこのように言っています。「神が……変りたもう神でもなく、無限の過去から無限の未来にわたって同じにまします。」(モロナイ8:18)

第4、神は偽りを言わない。ジェレドの兄弟はこのように言っています。「真実の満ちたる神なる故、偽りが言えず真実を宣う。」(イテル3:12)

第5、神は人を偏りみられない。モルモンは「神が不公平な神でな」と証しています。(モロナイ8:18)

第6、神は愛の神である。この神聖な属性について、ニーファイは次のように記しています。「主なる神は世のためになることでなければ何事もなしたまわない。……自分の命をぎせいになさるほど深く世の人を愛したもう。」(IIニーファイ26:24)

モルモン経は、人々をキリストのもとへ、そしてキリストの教会へ導くために、神のみことにより世に出されたものです。ですから、私たちはもちろん、教会員でない人々も、モロナイが言っていることを試してみるにより、モルモン経の真実性を知ることができるはずです。(モロナイ10:3-5参照)

主に関する大いなる知識を得ること、

またその知識を人々と分かち合うことは、何とすばらしい賜でしょうか。

私たちは皆さんが、ただキリストの復活に関する聖書の話を読むだけでなく、キリストが復活の後にアメリカ大陸に住む人々に現われたときの様子をモルモン経の中から読み、それを教会員以外の人人と分かち合っていたいただきたいと思えます。

教会員でない人々にモルモン経を差しあげるか、貸してあげてください。必要ならば、皆さん自身のモルモン経を使ってください。それが人々にとって永遠の祝福となるのですから。

最後に、私たちはモルモン経の中で言われているように、「キリストを拒まずに受け入れ」(IIニーファイ25:28)なければなりません。人間の腕に依り頼むのではなく、キリストに頼るのです。(IIニーファイ4:34参照) また「キリストの御許に来てキリストによって全く」(モロナイ10:32) ならなければなりません。私たちは義に飢え渴きながら、「へりくだりたる心と悔いる精神とを以て」(IIIニーファイ12:19) 主のもとに来なければならぬのです。そして聖典を通し、聖きみたまを通して受ける「キリストの言葉をよく味わう」(IIニーファイ31:20) ようにしなければなりません。

つまり、私たちは「生ける神の御子が示したもうた模範に従い」(IIニーファイ31:16)、御子と「同じ人物」(IIIニーファイ27:27) にならなければならぬのです。

モロナイ同様、私も「主の誓約がごとごとく果されるまで、主の永遠のみこころは必ずつづけて行われる」(モルモン8:22) ことを証いたします。

キリストが再臨される日も、そう遠くありません。キリストは王の王、主の主として、力のうちに来られます。そしてあらゆるものがひざをかがめ、あらゆる舌が「イエスはキリストである」と告げるのです。

しかし私は今、イエスはキリストであると証します。また、ジョセフ・スミスが主の予言者であり、モルモン経が神のみ言葉であること、主の教会である末日聖徒イエス・キリスト教会が真実の教会であり、キリストがその頭であることを、心から証いたします。

以上のことを、イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

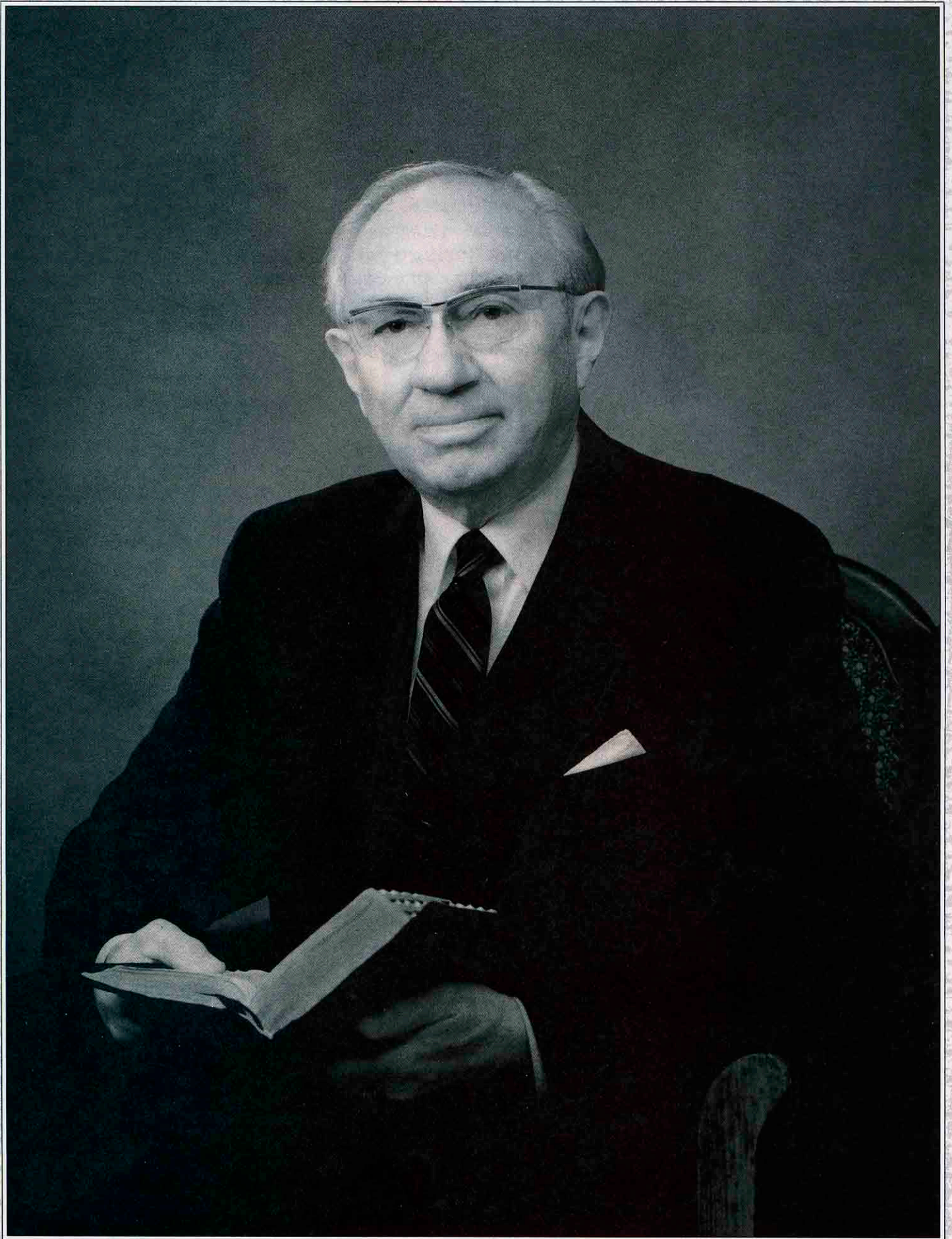
ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに以下の点を取りあげるとよいでしょう。

1. 御父の霊の子供として最初に誕生した私たちの長兄イエスは、この世が創造される前に、救い主となるように予任されていた。
2. イエスは御父の指示のもとに地球を創造され、肉において天父の独り子として御父のみこころを行ない、「十字架にかけられる」ために、この世に来られた。
3. 聖書とモルモン経は共に、主の誕生、復活、贖いの犠牲を証している。
4. 予言者ジョセフ・スミスにより回復されたモルモン経は、この末日に人人をキリストのもとに、主の教会に導くために神により用意されたものである。
5. 教会員は、キリストがアメリカ大陸の人々にも姿を現わされたというモルモン経の話を会員以外の人々と分かち合う。

話し合いを進めるために

1. 私たちの日々の生活における救い主の役割について、自分の感じていることを述べる。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておいてはどうだろうか。



ゴードン・B・ヒンクレー

第一副管長

十二使徒定員会会員
ボイド・K・パッカー

ゴードン・B・ヒンクレーは、ソルトレークタバナクルにおける教会幹部としての最初の説教でこう語っています。

「私は……自分ひとりでこの道を歩んできたわけではありません。きょうここに集っておられるすばらしい方々に、また……名前を思い出すことはできませんが、私に助けを与えてくださった多くの方向に心から感謝しております。」（「大会報告」1958年4月）

ここで初めからゴードン・B・ヒンクレーの略歴を書き立て、彼にのみ焦点を当てることは誤解を招き兼ねません。彼の真実の気持ちを伝えるには、まずやさしく、指導力と忍耐力に富む彼の妻、マージョリー・ベイ・ヒンクレーのことから話さなければなりません。ヒンクレー兄弟がこの召しに就くことになったのも、ほかならぬ姉妹の影響があったからこそなのです。

彼女の影響力がどんなものであったかを知るには、まず開拓者であった彼女の祖母たちの試練と苦難に満ちた時代に目を向けてみる必要があります。

彼女の父方の祖母メアリー・ゴベルは、13歳で家族と共に英国からユタに移って来ました。彼女の父親は、幌馬車に乗って手車隊の開拓者に同行しました。

メアリーの母親、妹、弟たちは皆、その厳しい旅の途中で亡くなりました。彼女自身も足が凍傷になり、後につま先を切断しています。幼いメアリーは、母親の遺体の載ったその馬車で、ユタの盆地に入ったのでした。

ヒンクレー姉妹の母方の祖母マーサ・エリザベス・エバンズは、父親がステーク部長のジョージ・パックスマンという誠実な青年と結婚しました。大工職に精通していた彼は、ユタ州のマンタイに移ってから、神殿建設のために力を注ぎました。彼らは草ぶき屋根の家に住んでいましたが、福音の神聖な誓約に結ばれたふたりは、幸せな生活を送りました。

彼らの2番目の子供（ヒンクレー姉妹の母親）が生まれる2カ月前、ジョージ・パックスマンは、神殿の東口の重い扉を取り付ける作業をしていて、重傷を負いました。扉を支えていた手がすべり、あわててそれを押さえようとして体に強い衝撃を受けたのです。

内臓を損傷した彼は、それから1週間もしないうちに、苦悶の死を遂げました。その後、マーサは裁縫で生計を立て、娘たちを立派に育てあげたのです。彼女は62年間、未亡人として暮らしました。しかしその間、彼女は決してやさしさと信仰を失うことはありませんでした。そし

て彼女の娘の娘が、今日の使徒、副管長の妻となったのです。

ヒンクレー副管長の祖父アイラ・ナサニエル・ヒンクレーは、早くに両親を失い、祖父母と共に生活するために、ミシガン州からイリノイ州スプリングフィールドに送られてきました。十代の彼は、イリノイ州のノーヴーまで徒歩で行き、そこで予言者ジョセフ・スミスに会っています。

彼は、ほかの開拓者と一緒に、西部を目指して旅をしました。南北戦争中、彼はみずから連邦軍に志願し、大陸横断電線を守る任務に就きました。後に、彼はブリガム・ヤングによりユタ州コーブ・クリークに遣わされ、そこで今なお存在する要塞を築きました。

西部への移動の途中、アイラ・ヒンクレーはあとに続く人々のために、ひとシーズン同じ場所にとどまり、大草原を耕してあとから旅する人々のために穀物を育てました。ヒンクレー兄弟姉妹の先祖たちは、あとに続く人々のために、信仰の畑を耕していったのです。その開拓者精神は、遺産としてヒンクレー兄弟に受け継がれ、守られてきました。彼は、この信仰という遺産を自分のものとしてではなく、あとの世代のために保管し、守り、育てているのです。ふさわしい使徒



左上：教会のラジオ、広報、伝道文書委員会のプロデューサー兼秘書をしていた頃のゴードン・B・ヒンクレー長老。右上：1932年春、ユタ大学卒業式にて。中央左：1930年代初期にヨーロッパに伝道に召されて以来、ゴードン・B・ヒンクレー長老は、教会の伝道事業の面で世界中に影響を及ぼしている。中央右：クモラの丘ページェント（野外劇）で、宣教師やいろいろな人々に、教会の回復に関する力強い証を述べるゴードン・B・ヒンクレー長老。下段左：1958年4月6日、総大会で新しく十二使徒補助に召されたヒンクレー長老を紹介するデビッド・O・マッケイ大管長。

は、その遺産を受け継ぎ、子々孫々まで祝福を及ぼすことができるのです。ヒンクレー長老の言うこの「信仰という財産」は、善良な人々の影響力によって、より大きく増えていくのです。ヒンクレー副管長もヒンクレー姉妹も、このことをはっきり示してくださいました。

ヒンクレー兄弟の父親プライアント・S・ヒンクレーは、コープ砦ができたとき、わずか生後1カ月でした。家族は後にユタ州フィルモアに移り、アイラ・N・ヒンクレーはそこでステーキ部を管理する責任を受けました。プライアント・S・ヒンクレーは父親に続き、会員数約15,000人を抱える当時最大のステーキ部、ソルトレーク・シティーのリバティーステーキ部を管理する責任に就いています。シオンのステーキ部の管理者として、ゴードン・B・ヒンクレーは3代目ということになります。

プライアント・S・ヒンクレーは、3つのすばらしい賜に恵まれていました。すなわち、機敏な精神、堅固な信仰、そして当時にしてはめずらしい高度の学問です。

結婚後、子供たちには恵まれた彼でしたが、妻の方は、育ち盛りの小さな子供たちを残して先に世を去りました。当時彼は、LDSビジネスカレッジの学長をしていました。そこへ愛らしいアダ・ピットナーが英語と速記の教師としてやって来たのです。新しい速記技術を習いに東部の学校へ行っていた彼女は、その地域に新しい技術を紹介した最初の人となりました。後の使徒リグランド・リチャーズは、彼女の生徒のひとりでした。また、後の副管長である若きJ・ルーベン・クラーク・ジュニアは、この学校で教鞭を執っていました。

プライアントはアダと再婚し、家族も大きくなっていきました。しかし、ヒンクレー副管長の「私たちは皆同じ、ひとつの家族でした」という言葉からもわかるように、ここでは「もうひとつの家族」とか「別の家庭」という言葉はあてはま

らないのです。

ゴードンが執事に聖任され、ステーキ部の神権集会に出席する資格ができたときのことです。父親は、あまり気乗りしない息子を初めての集会に連れて行きました。そしてステーキ部長会の一員であった父親は壇上に行き、ゴードンは後ろの方にいました。会が始まり、出席者が開会の歌『たたえよ、主の召したまいし』を歌いました。

「たたえよ、主の召したまいし
主と語りし予言者を……」

（「讚美歌」147番）

彼が何とも言えぬ気持ちに捕らわれたのはそのときです。「私は心の中に、今までにない強い確信がわきあがってくるのを感じました。」ヒンクレー副管長は後にこう語っています。確信に満ちあふれたその執事の少年の心に、ジョセフ・スミスは神の予言者であるという確かな証が宿ったのです。彼は、はっきりとそのことを知りました。自分の存在が確かなように、はっきりとそのことを知ったのです。そのとき以来、彼はその「信仰という財産」で身を固めてきました。

後に、大学生として優秀な彼が疑問にぶつかったときでも（若い教会員なら一度は経験することですが）当時のその思いが彼を支えてくれました。それは、60年以上たった今日でさえ、涙なくして語ることでできないすばらしい経験となっています。

これは、教会の若者たちにとっては実にすばらしい教訓となるものです。大学時代のヒンクレー兄弟の信仰に、多少なりともぐらつきがあったとしても、彼は英国への伝道の召しに応えることで、信仰を永久に確立していったのです。言葉を巧みに使いこなす才能のあった彼には、実は、ニューヨークのコロンビア大学に進み、ジャーナリズムの学位を取る計画があったのです。しかし、それも待たなければならなくなりました。

大恐慌の最中、通貨為替相場が不安定なこともあって、英国は当時、世界一お

金のかかる伝道地となっていました。初期の使徒たちが初めてみ業を紹介した場所プレストンが、宣教師としての彼の最初の伝道地となりました。彼は、十二使徒会の会員であり、ヨーロッパ伝道部の伝道部長であったジョセフ・F・メルル長老の補佐として働きました。また後に七十人第一定員会会長となったG・ホーム・ダラムは、ヒンクレー長老の同僚のひとりでした。

彼は、伝道の状況に関する大管長会へのメッセージを携えて、伝道から帰ってきました。最初、ヒーバー・J・グラント大管長ならびに副管長たちとの会見は、数分間の予定になっていました。ところが、その会見はかなり長引いたので、数カ月後にわかったことですが、大管長会とのその会見の中で、彼は責任への召しの面接も一緒に受けていたのです。

最新の情報伝達手段による伝道を行なうため、十二使徒会による新委員会が組織され、ゴードンは、教会のラジオ放送、広報、伝道文書委員会のプロデューサー兼秘書となりました。これは、現在の広報部の先駆けとなりました。大学へ行くという彼の計画はしばらく見送られ、代わりに伝道から帰って以来パートタイムで教えていたセミナー教師としての彼の経験が生かされることになりました。この委員会は、ステイブ・L・リチャーズ長老を委員長とする6人の十二使徒で構成されていました。

この委員会の事務所として、ふさわしい空家は見つかったのですが、当初そこに家具類は何ひとつありませんでした。機知に富むゴードンは、伝道中の同僚で父親が事務用家具を扱っている人を訪ね、少々ぐらつく、傷物のテーブルを抱えて帰って来たのです。脚が1本短かったそのテーブルも、木片を置くことで直り、テーブルの表面のゆがみや少しばかりのひび割れは、気に留めないことで解決しました。そこへ家からタイプライターを持って来た彼は、やがて使徒職、そして大管長会の職への聖任の先がけとなる



上段左：執務室でのゴードン・B・ヒンクレー長老。上段右：1970年4月、妻マージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹と共に。中央：教会歴史に関するヒンクレー長老の著書「回復された真理」を見るジョセフ・フィールディング・スミス大管長。この著書は、後に宣教師の標準参考書となった。下段左：中国の人々にあいさつするヒンクレー長老。ヒンクレー長老は長年にわたり、極東における教会を管理し、教会の成長に寄与した。

仕事を開始したのです。

彼は、青年時代にいくつかの経験をしています。1918年、ゴードンが8歳のとき、連合軍兵士としてフランスで活躍中だった兄、スタンフォードの死を知らせる、悲しい電報が届きました。

これは、幼いゴードンに、また成人してからのゴードンに、大きな影響を及ぼしました。何年か後の朝鮮動乱、ベトナム戦争において、彼は軍にあって、また伝道の面で多大な貢献をしました。伝道の仕事こそが、彼の最初の恋人だったのでした。

彼は、合衆国の選抜徴兵局との話し合いで、事態が許す限り伝道と軍務を並行してできる許可を得ました。しかし、それらはすべて法の下に行なわれました。

彼は世界中に散在する軍人たちを訪れています。そして彼らに、福音に従った生活をしている軍人は皆宣教師であると説いています。韓国の肌寒い部屋で、そしてベトナムの戦地で軍服に身を包んだ宣教師たちの証を聞き、彼の心は震え、信仰が強められていきました。

ゴードンは若くして、祝福師トーマス・E・カリスターから次のような祝福を受けています。祝福師はまた予言者でもあるのです。

「^{あなた}は立派に成人し、イスラエルの中にあつて力強い、勇敢な指導者となるであろう。……また聖なる神権が与えられ、^{あなた}はイスラエルの中にあつて、神に召された者だけに許されるみ業に就くであろう。また^{あなた}は常に平和の使者となり、地上のあらゆる国々が^{あなた}の声を聞き、^{あなた}の語るすばらしい証によって真理を知るであろう。」

英国での伝道から戻った彼は、祝福師の祝福の中にあつた約束が成就したことを悟りました。彼はすでに当時の4大首都、ロンドン、ベルリン、パリ、ワシントンD.C.において、真理の証を宣べ伝えていたのです。

しかし、それ以上に大きな約束の成就が彼を待ち受けていました。彼は、1958

年に十二使徒補助に、そして1961年に使徒に召されました。使徒となった1961年には、アジア地域の教会を管理する責任を受けました。1962年には、ヘンリー・D・モイル副管長と共に、合衆国、英国、ヨーロッパの全伝道部を回りました。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長がそうであったように、ヘンリー・D・モイル副管長も、彼に大きな影響を与えています。

彼にとっては、これまでみ業を携えて行った国々を数えるよりも、まだ行っていない国々をあげた方が早いのです。彼は、南アメリカのギアナを除いて西半球のすべての国々を訪れ、証を宣べ伝えています。実際には、ロシア、ハンガリー、ユーゴスラビアを含むヨーロッパ大陸のすべての国々で、またフィリピン、インド、インドネシア、マレーシアを含む東洋で、近東で、アフリカで、そして太平洋の島々で証を宣べ伝えています。確かに、祝福師には予見する力があります。召しに忠実なヒンクレイ兄弟は、自分の祝福が成就していくのを目の当たりにしているのです。

神の王国で謙遜にみ業に仕える人には、自己の不十分さに気づかせてくれる特別な性質や特質が^{もたら}具わっているのかもしれませんが。

しかし、そのような「賜」はそうたびたび表面に出てくるものではありません。それは、普通は奥深く隠れているものです。その賜は、モーセが偉大な示現を通して得たと同じ教訓を自分も得ていることを悟らせてくれるものです。モーセはこのように言っています。「さてこれを以てわれ知る、人は物の数にもあらざるを。この事を^かつてわれ考へたることもなかりき。」(モーセ1:10)

ゴードン・B・ヒンクレイの性格にもそのようなところがあります。本人も認めているように、少年時代の彼が内気だったというところにそれが現われているようです。この「賜」がなかったなら、社会で高い地位にある彼が、一般の人々

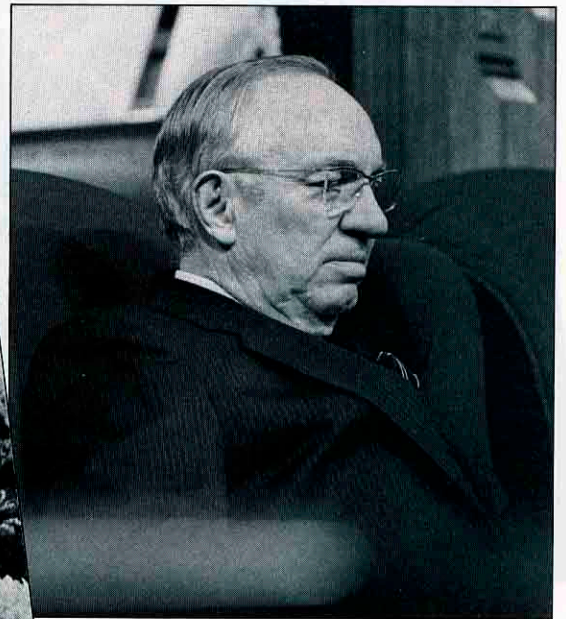
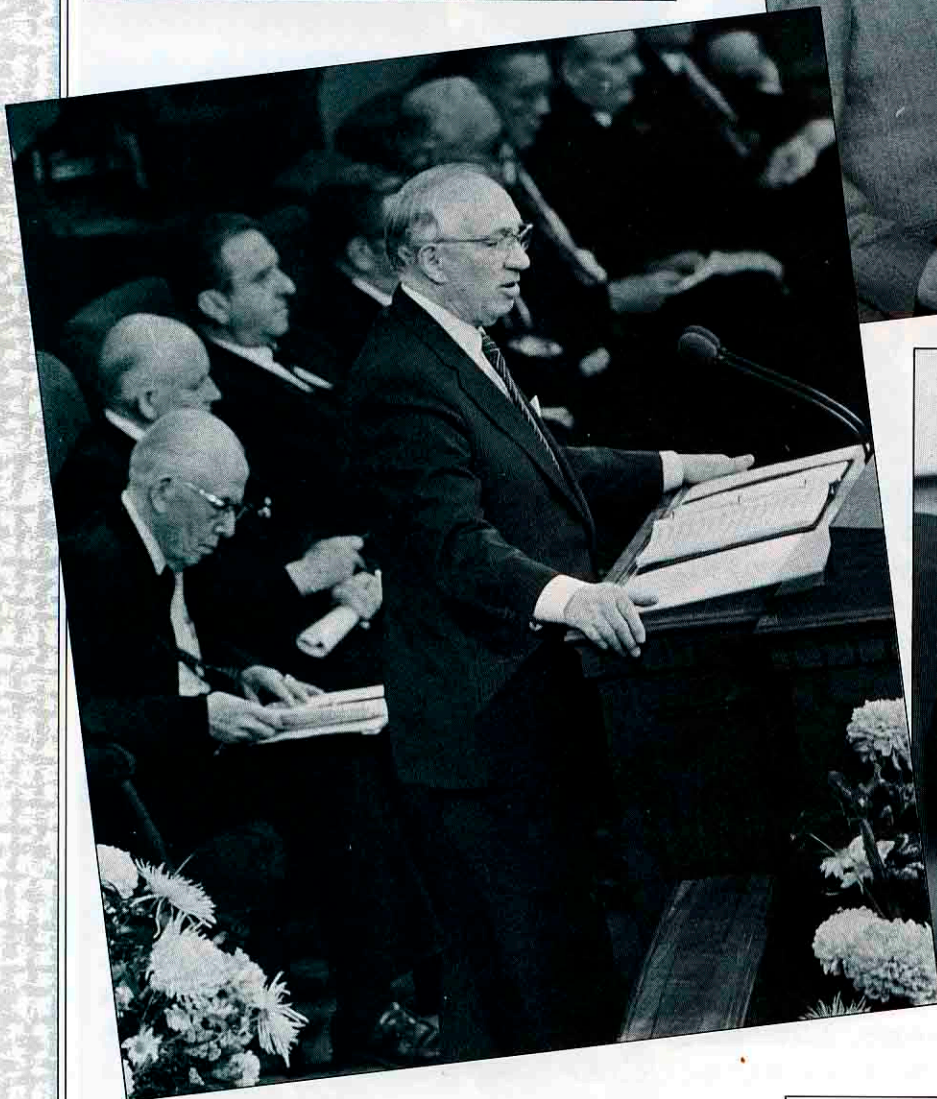
の感情や必要なものに対して、また未亡人や貧しい人々に対して関心を示すことはなかったかもしれません。しかし彼は、そのような人々の必要に気づき、常に心にかけているのです。「私には教会員の気持ちがよくわかります。私もそのひとりですから。」彼はこう語っています。

ヒンクレイ兄弟は、非公式に「心を痛める人々のための委員会」と呼ばれていた委員会で数年間働きました。この委員会では、重大な罪を犯した人々の問題が取り扱われていました。彼は、罪の意識にさいなまれている人々に対して、また特にその罪の犠牲となった関係者に対して、心からの同情を寄せています。

ヒンクレイ兄弟がそうした慈悲深い人であるということは、教会員も認めることです。それは、権威の乱用や威圧的な指導者、学歴偏重社会、家庭生活での理に合わない行動、この世的な主張などを敬遠する(びつたりの言葉です)彼の態度からもはっきり言えることです。

教会の指導者たちに示される敬意を見て、彼らの生活はみな荣誉と喜びに満たされているものと思う人がいるようです。ヒンクレイ兄弟の教師、友人として大きな影響を与えてきたスティーブン・L・リチャーズ会長は、ある総大会の神権部会で、会員たちのむずかしい問題に対処するときの気持ちをこのように述べています。「兄弟の皆さん、そうした問題を処理するときには、実にこの召しにある喜びが取り去られてしまうような思いです。」ヒンクレイ副管長を知る人々には、こうした問題が彼の上に重くのしかかっていることがわかるはずですが、彼の、心をつらえるユーモアのセンスが人々の気持ちを和ませてくれるのは、そのようなときです。

内面的なものを見て個人の価値を評価する彼は、世の著名人と会見するにふさわしい人です。私たちは、彼が大統領や各国の大使、将軍、提督、そのほか高い地位にある人々と接見するのを見てきました。



上段左：生涯を教会のために捧げておられるヒンクレー副管長ご夫妻。上段右：ヒンクレー副管長は、31の神殿の献堂式および再献堂式に参列している。新しい神殿の模型を見ながらW・グラント・バンガーター長老と話し合うヒンクレー副管長。下段左：総大会の司会をするヒンクレー副管長。下段右：テンプルスクウェアのタバナクルの席で瞑想するヒンクレー副管長。

自己紹介の中で、ヒンクレー兄弟は決まって人々の笑顔を誘い、心とむあいさつをします。しかしなお彼は威厳を失わず、時機を見てはモルモン経の聖句を引用し、アメリカ合衆国大統領に話しかけるのです。

この時代に、彼ほど福音を伝え、聖徒を教え導き、死者の救いを見えるという誠実な目的のために各地を訪れ、遠方まで足を伸ばした人はいません。

ヒンクレー長老はなぜか、苦しみ悩む聖徒が慰めを必要とするときに、その身近にすることが多いようです。彼がトンガに滞在していたとき、大勢の聖徒を乗せた船が沈没するという悲しい出来事がありました。彼はその事故の起きた島へ飛び、人々を慰めたのです。また、あの恐ろしい地震がペルーを襲ったときも、彼は南アメリカにいました。そこで再び、彼の思いやりに満ちた慰めの言葉が聞かれ、援助が要請されたのです。また韓国に滞在中は、宿泊中のホテルのそばで銃声が聞かれるということもありました。

ヒンクレー副管長は、死者の救いの業を早める方法を考えるよう、デビッド・O・マッケイ大管長から要請を受けています。現在神殿のエンダウメントセッションがフィルムによって行なわれるようになったのも、彼の働きがあったからです。また、この方法が取り入れられているスイス神殿をはじめ、彼は31の神殿の献堂式および再献堂式に参列しています。ここ数年、キンボール大管長とロムニー副管長が遠出できなくなっただけからは、ヒンクレー兄弟が18の神殿の献堂式を管理し、献堂の祈りをするという神聖な責任を受けてきました。

彼の家庭における、聖なる神殿の誓約の意義についても、尋ねられれば彼はやさしく答えてくれます。ヒンクレー兄弟姉妹には5人のお子さんがいます。キャサリン・H・バーネス、リチャード・ゴードン、バージニア・H・ピアース、クラーク・ブライアント、そしてジェーン・H・ダッドレーです。子供たちやそ

の伴侶の中に、父親の著名さを迷惑がる人はだれもいません。むしろ父親の責任を、彼らも大切な一端を担っている神聖な務め、祝福とみなしているのです。「これはみな妻のおかげです。」こう彼は語っています。

ゴードン・B・ヒンクレーの生涯を振り返ってみて、今日ある責任に対する一連の備えがあったことに感動させられます。彼は半世紀以上にもわたり、何らかの責任で7人の大管長と働きを共にしてきました。ヒーバー・J・グラント、ジョージ・アルバート・スミス、デビッド・O・マッケイ、ジョセフ・フィールディング・スミス、ハロルド・B・リー、スペンサー・W・キンボール、そして現在のエズラ・タフト・ベンソンの各大管長です。教会内にあつては、ワード部、ステーク部内の教師、指導者として、また日曜学校中央管理会の会員として、補助組織のアドバイザーとして働いてきました。

教会幹部からなるいくつかの重要な委員会の委員長、委員長代理となったこともあります。中央神権委員会、伝道委員会、神殿委員会、教会コーリレーション委員会、人事委員会、予算歳出委員会、BYU教育委員会および評議員会（このふたつの実行委員会）、広報委員会、特殊問題委員会、情報伝達システム委員会などがそのおもなものです。

これらの召しには、教会の物心両面にわたる問題がすべて含まれていることに気づかれると思います。

若き日のゴードン・B・ヒンクレーは、大学で経済学を専攻しました。これが彼の後の生活の基盤となりました。実業界のリーダーたちにその鋭敏な洞察力を買われた彼は、いろいろな理事会のメンバーとなるべく要請を受けたのです。彼は、主要な財政上の問題や方針の決定に当たって、実業界のリーダーに適切なアドバイスを与えています。こうした仕事と教会の召しが両立するものか、疑問に思う方もいらっしゃるでしょう。ご承知のよ

うに、教会には専門の聖職者がいません。様々な職種にある人々が、教会幹部に召されているのです。しかし同時に、彼らには、什分の一やそのほかの献金など教会の神聖な資金を管理する義務もあります。

主が使徒たちに、世から取り去られず世にとどまるように、しかし世のものとなつてはならないと指示されたことの意味を、ここから理解することができると思っています。

教会の事業は世界的に広がっています。それに伴い、礼拝堂や神殿建設資金の捻出、伝道や伝道事業の中心となる数々の財政管理が問題となってきます。もちろん、専門の経理士が雇われ、それらの問題を担当しますが、大管長、十二使徒定員会、管理監督会からなる什分の一歳出委員会がその全責任を負っています。ヒンクレー兄弟のそうした貴重な経験は、教会の神聖な資金の管財人としての責任に大いに貢献しているのです。

こうした数々の事業や市民との接触を通して、ヒンクレー兄弟は人々の様々な問題に通じるようになりました。彼は特に社会問題や政治問題に関心を持ち、それらに対する知識を深めています。こちらの面での経験も、教会にとっては貴重な力となっています。幾度か倫理問題が取りざたされ、教会の影響力が脅かされそうになったときも、彼はその大変な時期にあつて対処の方法を講じる責任を受けています。

しかし、ヒンクレー副管長を導いているのはこの世の標準ではありません。彼は、印のたくさんついた、使い古された愛用の聖典を、常に携帯しているのです。早朝に問題へのアドバイスを求めて彼の事務所をノックすると、やや間があつてからドアが開きます。そうです。ひざまずいて主の導きを請うているのです。それを知れば、主がなぜゴードン・ビットナー・ヒンクレーを使徒として、予言者である大管長の補佐として召されたかが理解できるでしょう。

七十人第一定員会会長会に異動 ジョセフ・B・ワースリン長老、新たに七十人第一定員会会長会に

大 管長会は、8月1日、七十人第一定員会会長会の異動を発表した。

新しく8月15日付で同定員会会長会に召されたのはジョセフ・B・ワースリン長老である。これは、同定員会会長の職を解任になってヨーロッパ地域の地域会長となった、カーロス・E・エイシー長老の後を継ぐものである。

ワースリン長老は、エイシー長老がこれまで受けていたカリキュラム管理部の管理部長および教会機関誌の編集長の責任もともに引き継ぐことになった。

また七十人第一定員会会長会先任会長にはディーン・L・ラーセン長老が新たに召された。

ジョセフ・B・ワースリン長老（69歳）は、1975年4月4日に十二使徒定員会補助に召され、1976年10月1日には七十人第一定員会会員に召された。その後1984年7月1日にはヨーロッパ地域会長の責任を受けた。

教会幹部に召される以前は日曜学校中



ジョセフ・B・ワースリン長老

央管理会員を務めており、またユタ州において幾つかの会社を経営していた。妻のエリサ・ヤング・ロジャーズ・ワースリン姉妹との間には8人の子供がある。

現在56人の会員で構成されている七十人第一定員会は、イエス・キリストの福音を宣べ伝え、全世界に教会を建てて、機能させるという使命を持っている。現在総教会員数は600万人に上り、96の独立国、18の未編入地域や植民地、属国には14,500のワード部および支部が組織されている。

七十人第一定員会の内の4人の長老は神殿長の任にある。ロイデン・G・デリック長老はワシントン州のシアトル神殿、アンゲル・アブレア長老はアルゼンチンのプエノスアイレス神殿、ビクター・L・ブラウン長老はソルトレーク神殿、H・バーク・ピーターソン長老はジョーダンリバー神殿の神殿長をそれぞれ務めている。

また、J・リチャード・クラーク長老は南アフリカ・ケープタウン伝道部の伝道部長を務めている。

ジョージ・I・キャンノン長老、アジア地域会長会第二副会長に 地域会長会夫人は補助組織の地域代表として



ジョージ・I・キャンノン長老

教 会は今世界を13の地域に区分し、それぞれの地域では、七十人第一定員会の中から選ばれた地域会長会によって管理が行なわれている。アジア地域では、大管長会からの発表により、8月15日をもって以下のとおり変更がなされた。

アジア地域会長会

会 長 ウィリアム・R・ブラッドフォード長老
第一副会長 ヤコブ・ディヤガー長老
第二副会長 ジョージ・I・キャンノン長

老（キース・W・ウィルコックス長老の後任）

また地域会長会の夫人も、地域中央管理会の会長会を務めるという責任を負っている。この責任は初等協会、若い女性、扶助協会など、補助組織の地域代表となり、中央補助組織の指導者を助ける役目となる。アジア地域にあってこの召しを果たす姉妹たちは以下のとおりである。メアリー・アン・バード・ブラッドフォード姉妹、ベア・リム・ディヤガー姉妹、イザベル・ヘイルズ・キャンノン姉妹。

完成した 東京神殿別館

—約100人の宿泊が可能—

昨年7月12日に島袋神殿長の管理で
鍬入れが行なわれ、工事に入った
東京神殿別館の新築工事が、去る7月9
日に完成した。

鍬入れ式の模様は今年の「聖徒の道」
9月号のローカルページで紹介されたが、
工事着手からちょうど1年で完成したこ
とになる。

工事規模は延床面積が2,023平方メー
トル(約620坪)で、一部地上3階、地下
1階の4層から成っている。この建物に
は、地下1階に神殿参入者のための休息
室が18室と、多目的室およびその付属施
設があり、約100人の宿泊が可能である。
1階には神殿宣教師のためのアパート
(6戸)と、JMTC(日本人宣教師訓練
センター)の施設、2階には230名収容
の礼拝堂と1階と同様の神殿宣教師アパ
ート(2戸)、そして3階にはさらに3戸
の神殿宣教師アパートがある。

ソルトレークから提示された建物の計
画案に地域総合施設委員会の助言や指導
を加えながら、基本設計を進めたのであ
るが、実施設計に当たっては、都市計画
に関する法規の規制により、多くの制限
を受けた。

まず日影規制により敷地内での建物位
置や各部分の高さについても制限を受け
た。地下1階、地上3階の構造になった
のもそれらの制約によるものである。地
上高さについて、日影図により検討した
結果では、地盤面より約8メートルが法
的限界の寸法だった。これでは地上4階
はおろか3階さえもむずかしいため、地
上階については一部3階とした。それ
でも法的限界の寸法より、わずか5センチ
低いのみである。

このようなわけで、高さを決定するの
に大切な平均地盤面を決めるおもな要素

となった建物周辺のドライエリアの深さ
や幅についても、これ以上深くも浅くも、
また広くも狭くもできないぎりぎりの寸
法を採用した。

建物全体の総重量が約4,000トンあり、
これを支えているのが1本あたりの直径
が約1.5メートルある20本の杭である。こ
の杭は、地下の硬い地盤の支持を受け、
1本あたり約300トンの荷重を受けてい
る。

神殿のイメージを壊さないように注意
を払って設計されたこの建物は、控え目
な色彩と意匠が取り入れられている。外
部のフェンスは神殿と同様のものを採用
した。これも神殿と同一の雰囲気を持
つためである。

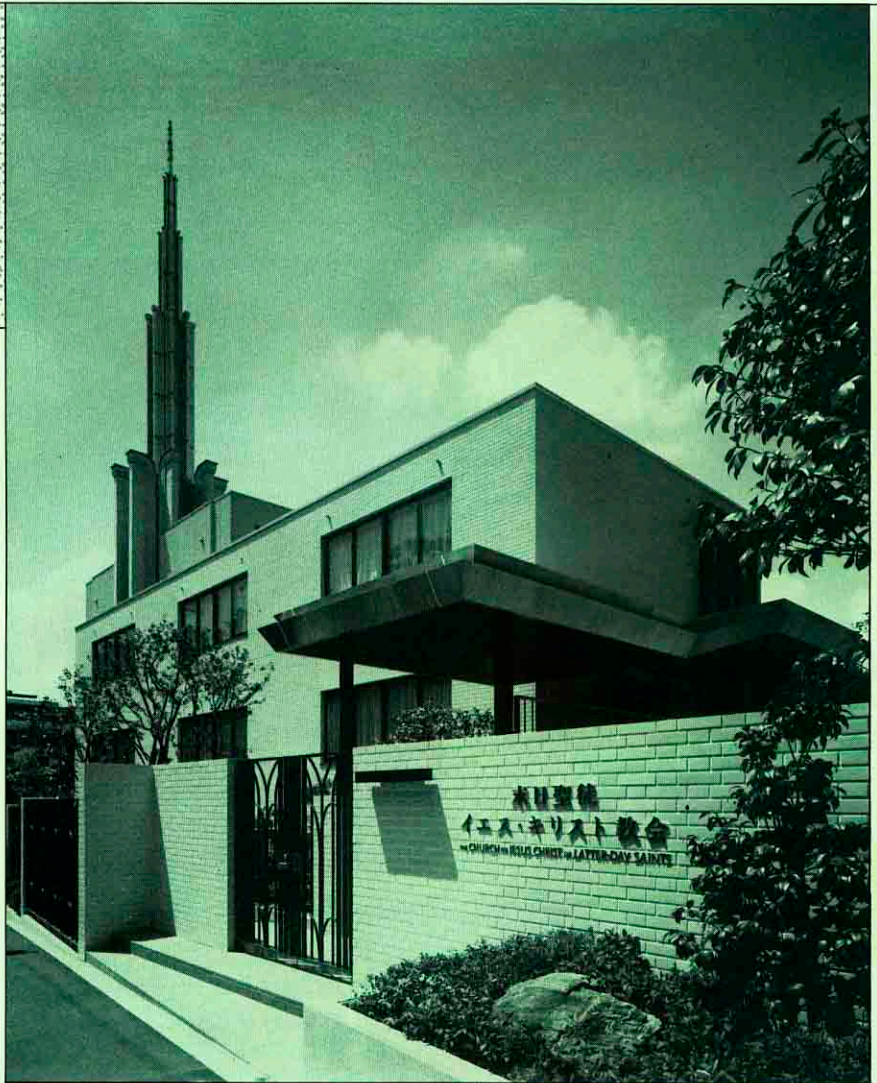
内装には現在各地に建設中の教会堂と
同じ標準仕様の材料を原則として使用し

たが、2階の礼拝堂の腰壁には、彫刻の
施された立派なパネルを使用している。
これは以前この建築用地にあって取り壊
された旧野村邸の壁板を移設修復したも
のである。

トラックや建設機械の騒音、震動で近
隣の住宅の方々に迷惑をかけたこと
をおわびすると同時に有形無形のたくさ
んの助言や協力が、神殿をはじめ、多く
の兄弟姉妹からあったこと、そして事故
もなく建設を進めた建設業者や設計事務
所の技術者の方々に深く感謝いたします。

建物周辺に植えられた樹木が根を張り、
緑の葉が生き生きと茂る頃には、なお一
層きれいで使いやすい建物として、東京
神殿を訪問する兄弟姉妹や、JMTCの宣
教師たちのお役に立てる施設となること
でしょう。(教会設計士・細谷 佐^{たすけ})

●東京神殿の北側に完成した神殿付属施設の別館



各地のたより



人（アメリカ連盟のユタ州からは21人の教会員のスカウトとリーダーが派遣されていた）、国内からはスカウトリーダー3万人、見学者など1万5,000人をあわせると約4万5,000人が列席した盛大な会となりました。国旗、隊旗、班旗など、4,000本の旗のパレードは実にすばらしく、また全員での大合唱は山々に響き渡り、実に壮観でした。

しかし、残念ながら台風くずれの豪雨に見舞われ、4日のジャンボリー大集会は途中で切りあげられ、また5日の宗教儀礼も中止になってしまいました。（ボーイスカウトは何かの宗教を持つことが奨励されている）5日の午前中は何も行事がなく、すべてのスカウトが各所の野営地で行なわれる宗教儀礼に参加することになっていました。末日聖徒イエス・キリスト教会エリアスカウト協議会は、ふたりの地区代表を迎えて、1,000冊のモルモン経を配布する予定でした。（個人の証の記されたモルモン経は、雨天のため当初予定されていた5日の宗教儀礼では配ることができなくなったが、参加した教会員のスカウトリーダーなどによって全部で600冊がジャンボリー開催期間中に配布された）私たちも名古屋から31冊持っていきました。せっかく会員の皆さんが提供してくださったものを持って帰っては申し訳ないと思い、隊長に話して隊員全員をマーキーテント（屋型テント）に集め、聖餐会を持つことにしました。

同じSHQ（県連盟派遣団本部）で奉仕されていた仙台副伝道部長の菅原誠一郎

第9回日本ジャンボリーに参加して

——600冊のモルモン経を配布——

愛知県連盟千種地区副コミッショナー 池田 茂美

スカウト活動に携わるようになって10年たちますが、日本ジャンボリーには初めて参加しました。日本ジャンボリーとは、ボーイスカウトの代表が4年に1回、日本のどこかに集って一緒に野営をし、日頃培った訓練の成果を活動を通して発揮したり、友情を深め合うというスカウトの祭典です。

今年は前回と同じ南蔵王の山麓で8月2日から6日まで総勢4万5,000人が参加して開かれました。名古屋第89団はリーダーを含めて5人の割り当てを受け、中学3年生3人、中学2年生ひとり派遣しました。代表スカウトの集まりなので、班や隊をはじめ、いろいろな面で各地方の団が協力して行動します。既設のキャンプ場を使用するのは違って、3万人ものスカウトが高原を開拓して野営をするので、大変大規模なものとなりました。野営地は13ブロックに分けられ、遠いところは、片道40分もかかります。輸送に使われたバス700台、トラック300台がひとつの野営地を出入りするため、

大変な交通渋滞でした。

日程は5日間ですが、私たちにとっては7泊8日の旅になりました。少年たちを行事や活動に送り出すため、リーダーは毎日4、5時間しか眠ることができないなど、多くの方々の陰の力で支えられた5日間でした。

開会式は夕暮れに浩宮様をお迎えして始まりました。16カ国からのスカウト400



●（写真上）モルモン経を手にする愛知第一隊のスカウトたち（宮城県白石の南蔵王の会場にて）●（左）バスを待つ間、モルモン経を読むスカウト

各地のたより

兄弟を迎えて開きました。愛知第11隊32人（4人は教会員）のスカウト全員が豪雨のため夜中、避難待機でよく寝られなかったにもかかわらず、目を輝かせて話を聞いてくれました。「近頃の子供は変わっている。宗教にまったく興味がないと思っていたら熱心に聞けるんだなあ」と、ひとりのリーダーが話していました。また、菅原兄弟を聖職者だと思っておられ、NTT（日本電信電話株式会社）の職員だと話したら温厚な方だと驚いていました。疲れて眠っていたシニアスカウト3人を除いて聖餐会に出席した全員にモルモン経を手渡すことができました。

私はスカウト活動は福音の実践をするうえで、また将来大人になって耐えることを学ぶためにも実に優れたプログラムであると確信しています。人間性の基本である自然の中での生活を避けて、神の創造されたものをつかむことは大変むずかしいです。小学校4、5年の初等協会の皆さん、カブスカウトに入って4年後の記念すべき第10回日本ジャンボリーに是非参加してください。大きな感動が得られることを約束します。（いけだ・しげみ 名古屋ステーキ部名東北ワード部第二副監督）

♥ 斉藤由貴姉妹



「私はこの教会に入って……もう19年になりますけれども、本当に今はこの教会に生まれてきたことを、この教会の子供として生まれてきたことをとても感謝しています。……私がとても弱くなったときや精神的に疲れてしまったとき、家族の愛やお友達の愛も私にとっては大切ですが、そんなときに神様にお祈りすると、本当に心が静まり平安になるのを覚えます。……

これからも皆さん、どうぞこの教会のことについてよく学んでいただけるようお祈りしています。」（「由貴ちゃんを知ろうビデオ上映会」より）

広島インスティテュート主催

「由貴ちゃんを知ろうビデオ上映会」を開催

新役員の新任命(任命)

7月16日から8月15日までに日本東京管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の新任命(敬称略)

- 札幌ステーキ部士別支部
新支部長：奥田理（前任者：村上常正）
- 郡山地方部会津若松支部
新支部長：斎藤雄仁（前任者：桑原豊）
- 横浜ステーキ部横浜中央ワード部
新監督：天満信夫（前任者：赤塚周）
- 名古屋西ステーキ部一の宮ワード部
新監督：松井利幸（前任者：日比野智）
- 山口地方部下関支部
新支部長：吉岡公夫（前任者：村岡弘）



「こんにちは、斉藤由貴です。広島
の皆さん、……まだ教会のことをよくご存じない方々も多いとは思いますが、……ぜひとも教会のことについて勉強していただきたい気持ちでいっぱい
です。」

4月26日、5月24日、6月21日、7月26日の4回にわたって、広島ステーキ部五日市ワード部と安古市支部において、ただ今テレビに、映画に、歌にと大活躍されている斉藤由貴姉妹と末日聖徒イエス・キリスト教会を紹介する「由貴ちゃんを知ろうビデオ上映会」が開かれました。高校生、大学生を主とした熱狂的なファンが開場1時間前から列を作り、実行委員の間からは、思わず「やったあ」という声があがりました。

そもそもこの企画は、五日市ワード部で行なわれている早朝インスティテュートに参加する大学生を中心とした若い兄弟姉妹たちによってなされました。「自分

たちと同じ年代の若い人たちにこの教会、そして福音を知ってもらいたい。そのために、末日聖徒として芸能界で頑張っておられる由貴姉妹の助けを得よう」と、伝道スピリットに燃えた彼らは、昨年の10月から準備を始めたのでした。

11月に行なわれた第1回目の由貴姉妹への取材、インスティテュートのレッスンの前後や冬休み、春休みを使った話し合い、3月の神殿訪問に合わせて行なわれた第2回目の取材などを通して、しだいにそのプログラムの骨格はできあがっていきました。途中、会場に予定していた大学のキャンパスが交渉がうまくいかず、断念せざるを得ない状況となったりしましたが、実行委員の断食と祈りによって様々な障害を克服していきました。

そのような実行委員の努力の甲斐あって、ビデオ上映会が始まり、由貴姉妹の挨拶と「悲しみよこんにちは」のメロディーが流れてくると、会場もシーンとな

各地のたより



●広島インスティテュートのビデオ上映会実行委員。後列左端は、広島ステークス部スキ部長であり、広島インスティテュート指導主事の西原里志兄弟

されました。また、ビデオの上映後には、由貴姉妹の自筆サイン入りの「モルモン経」が抽選でプレゼントされ、会場を沸かせました。

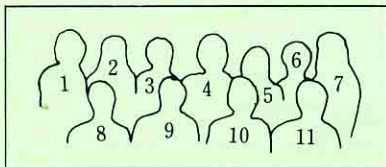
今回の企画を通して、インスティテュートやワード部、支部の若い兄弟姉妹たちの伝道精神が高揚され、徐々にではありますが、新しい仲間が増えつつあります。企画を全面的に受け入れてくださり、資料提供やアドバイスをしてくださった斉藤由貴姉妹をはじめとする斉藤ご家族の皆様のご厚意とご協力に答えるべく、さらに熱心に伝道活動にまい進していきたいと思います。(レポーター：広島インスティテュート指導主事・西原里志)

り、食い入るような視線が画面に集中しました。由貴姉妹の生い立ち、映画やCM、レコード制作のエピソード、コンサート風景などを交えて、由貴姉妹の確固とした信仰と証が90分にわたって紹介されました。

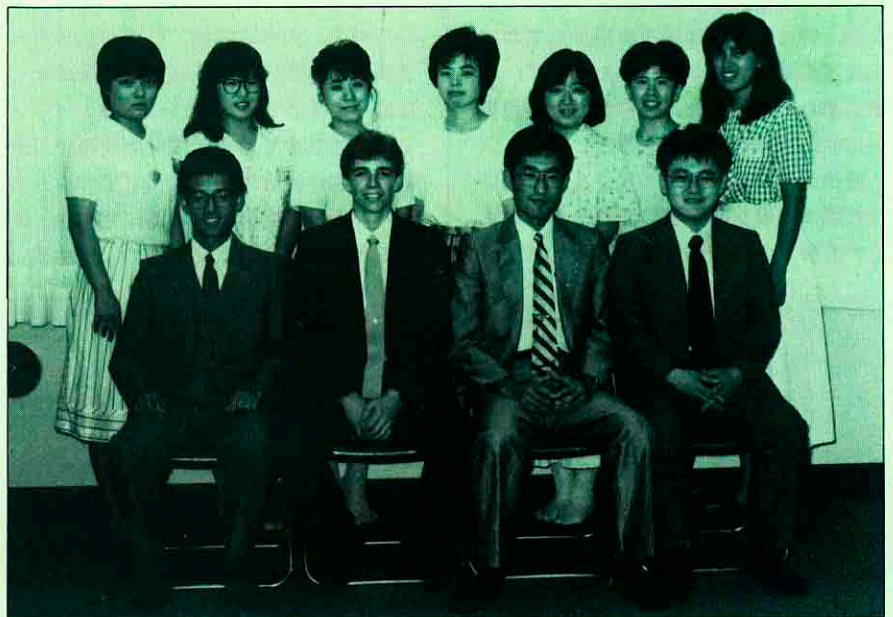
このビデオ上映会には、第1回目に集った55名をはじめとして、計4回で延べ150名の一般入場者がありました。アンケートを実施した結果、その大半が「このビデオを通して、教会に興味を持った」との答えで、早速多くの方が宣教師に紹介



7月に召された JMTC 第86期生 11名の名簿



S：ステーキ部，D：地方部
W：ワード部，B：支部



〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1 宇楽ルミ子	静岡S/沼津B	神戸伝道部	7 宮里悦子	沖縄那覇S/首里W	仙台伝道部
2 三浦富美代	北陸D/金沢B	福岡伝道部	8 西原和美	名古屋S/名東北W	東京北伝道部
3 西山香緒利	熊本D/熊本B	岡山伝道部	9 ゴドム・ルン	東京南S/東京外人W	神戸伝道部
4 佐藤伸	仙台M/鶴岡B	大阪伝道部	10 加賀谷拓也	北陸D/金沢B	大阪伝道部
5 河野奈津子	福岡S/北九州W	大阪伝道部	11 北島明紀	北陸D/金沢B	札幌伝道部
6 井藤悦子	札幌西S/室蘭W	大阪伝道部			

各地のたより



シリーズ **わがステーク部長** その③

〈インタビュー：札幌ステーク部〉

聞き手：当真健二(第一副ステーク部長)

潟沼誠ニステーク部長(49歳) に聞く

「まず神の国と神の義とを求めなさい」

——子供たちに教会のプログラムを最優先するように教えました——

●「温かいものに包まれ、 何時間も泣きました」

——最初に改宗のきっかけからお話を伺いたいのですが……。

「父母が信仰深かったせいもあり、私自身若いときから信仰ということに関心がありました。高校時代にプロテスタントやカトリックの教会にも行っていましたが、神はもういないと思ひましてね、左翼運動をするようになったんです。東京で暴れたりもしたんですが、結局挫折して北海道に帰って来ました。

昭和32年9月、私が20歳のときに若い宣教師ふたりが我が家を訪れ、そこからこの教会との出会いが始まったんです。とにかく私は全然言うことを聞かず、議論ばかりして宣教師をへこますのを唯一の楽しみにしていました。

ところが11月末の寒くなった頃、家庭集会をするために、教会で宣教師が手や顔、ワイシャツを真っ黒にしてコークスを燃料としたストーブを準備している姿を見て、私は初めて、この人たちには自分にはない何かを持っていると感じたんです。どうして私のような者ひとりのために愛を示すことができるのだらうと考えたとき、この人たちの言うことをまじめに聞いてみようという気持ちになったんです。それから教会にもきちんと出席するようになりましたし、モルモン経は改宗する前に23回読みました。何か間違っているところはないかと探すために読んだのですが……。 (笑)

そのようにして28年前の1月11日にバプテスマを受けました。その前日の晩に神様に全部自分の過去をお話して、もしこの教会が本当なら自分は一生この教会から離れたくない、どうか助けてください、とお祈りしますと聖霊が降って、何か母親の懷に抱かれているような温かいものに包まれ、何時間も泣きましたね。当時は風呂屋でバプテスマ会をしていましたので、大吹雪の朝でしたが、スキーで小樽のバプテスマ会場まで行きました。」

——これまで28年の信仰生活の中で一番印象深い教会の責任は何ですか。

「ステーク部長の前は副伝道部長、副地方部長、支部長と管理職の責任を長い間務めてきました。それらはどれもすばらしいものでしたが、一番楽しかったのは日曜学校で教えた経験ですね。」

●札幌市教育功労者賞を受賞

——現在は北海道教育大学に人文科の教授としてお勤めでいらっしゃるようですが、ほかに地域社会ではどのような活動をされていますか。

「私どもの子供が通っていた小学校のPTA会長を9年間務めました。それと札幌市に約180校ある小学校の連合PTAの会長を3年間務めました。そのほかに北海道教育委員会や札幌市の諮問委員会や研究委員会の委員も務めました。2年前には、これまでで最も若くして札幌市の社会教育功労者賞を頂きました。また2年ほど前から北海道新聞に連載さ



〈かたぬま・せいじ〉昭和12年北海道美唄市生まれ。北海道大学大学院で国文科博士課程を出て、現在、北海道教育大学教授。1978年8月に札幌ステーク部のステーク部長に召された。

れている教育相談の回答者をさせていたでています。そのほかに北海道教育委員会の家庭教育研究企画委員の仕事や札幌市の性教育諮問委員会の委員もしています。」

——ステーク部長という非常に忙しい責任を果たされながら、驚くほどたくさんのお公職に携わっておられるわけですが、このようにたくさんのお公職がおできになる秘訣は何ですか。

「やはりのんびりだからでしょうね。(笑)あまりくよくよ悩まないですし、副ステーク部長をはじめとして、たくさんの方々に恵まれていて、とてもよく助けていただいています。それと妻の理解と協力ですね。」

——これまでに何冊か本を書かれていますが、どういった内容の本ですか。

「専門書では『高村光太郎におけるアメリカ』それから文部省の刊行助成費を出していただいて出版した『儒学と国学』という本ですね。一般的なごく読みやすい本としては『おやじの教育力』『うちの子に問題はないか』などです。そのほかには、『幼稚園とお母さん』などの雑誌にも連載物で書いています。これは『こういうことをしてはまずいな』という我が家での失敗を正直に書くので(笑)みな

各地のたより

さんに喜ばれていると思うんですがね。」

●「結婚の許可を得るために 毎週日曜日、断食しました」

—次におふたりのなれそめについて、お聞かせ願えますか。

「私が大学2年生のとき、大学の研修旅行があって、ついでにひとりで九州から中国地方を旅行したことがありました。当時は全国に伝道部がひとつしかない時代でした。私がいた北海道の札幌から転任した宣教師が広島にいて、立ち寄れと言ってくれていたものですから、広島の教会へ行きました。その頃は教会に泊まることは何ら差し支えがなかったので、その日は一晩教会で宣教師と過ごしました。

翌日扶助協会のバザーが行なわれることになっていて、朝一番早く来たのが彼女でしたね。大変そうだったのでくるみ割りを手伝ったり、予定していたMIA（現在の独身成人プログラムの前身）の先生が来られないというので、急拠レッスンを彼女から頼まれて行なったりしたんです。

その日はちょうど私の誕生日でもあって、私のために彼女が手作りのパースデーケーキをそっと置いていってくれたりしてね。実は朝、姉妹と会ったときに、『あつこの人だ』と体に電流が走ったんですね。それで私は北海道に帰ってから、きちんとした交際をしたいと思い、扶助協会の会長さんに手紙を書いて、私の気持ちを伝えました。

しかし、姉妹の家でも私の方でも大反対で、毎週、断食をしたんです。姉妹のお父さんと会ったのも結婚式の当日でした。『どこの馬の骨ともわからんやつに娘はやれない』と馬の骨扱われたわけですが、なんとか東京で結婚式を挙げることができました。今でもそのときの習慣で毎日曜日断食をしています。」

—潟沼姉妹は、どのような印象を持たれましたか。

（潟沼姉妹）「当時私は、末日聖徒の結婚とはどのようなものかしらと思悩んでいました。両親の願いもありましたので、両親の勧めの人を教会に連れて行っ

たりもしていました。その方たちは私が信仰を持ち続けても構わないと言ってくれましたが、どうしても結婚する気になれず、福音の中で『永遠に生きる』とはどういうことなのか知りたかったです。ちょうどそのときに潟沼兄弟と教会で会ったんです。会ったときに何か瞬間的に、『永遠に生きる』とはこういうことだとパーッと目の前が急に開けたんです。それが私の第一印象でした。」

●「まず神の国と神の義とを 求めなさい」

—結婚されてから家庭生活を営んでいくうえで、おふたりの共通の決意とが目標といったものが何かおありでしたか。

「最初にふたりで話し合っ『まず神の国と神の義とを求めなさい』（マタイ6:33）という聖句を家庭生活の中心に据えようと決心しました。ですから教会のことをするときにはお互いに助け合っ、決して不平や不満を言わないようにしましょうと取り決め、これまで過ごしてきました。」

（潟沼姉妹）「まず神の国を求めることについて結婚した頃こんな経験をしました。夫が大学院に進学してから経済的にもとても大変な時期があったんです。アルバイトでやっと生活を支えていました。

旭川にいたとき夫が副支部長に召され、



●陽子夫人

木曜日に教会で行なわれていたMIAを管理する責任がありました。同じ頃に木曜日の夜の仕事の話が入って、そのお金がとても欲しかったのですが、やはり神様のことを先にしようということで仕事の話はお断わりしました。そうしますと不思議なことに、しばらくしてから、知らない方から愛別の高校へ時間講習に来てくださいと言われ、先の仕事より祝福された仕事をいただきました。生活が苦しかったときの経験ですが、今でも忘れられないですね。

また、子供たちにセミナーなど教会のいろいろなプログラムを最優先にして参加するよう教えてきました。そのことによって、子供たちが、学業や生活の面で失敗したり、挫折感を覚えたりしたときは、教会のプログラムで得た、主への信頼や祈りを実際に行なうことによって、



●潟沼ご家族。左から史朗兄弟(18歳)、潟沼ご夫妻、紗代姉妹(16歳)、善之兄弟(14歳)。6人のお子さんに恵まれており、このほかに潤兄弟(23歳・慶応大2年・大阪伝道部専任宣教師)、朗生兄弟(22歳・札幌医大2年、9月に岡山伝道部より帰還)、佳代姉妹(20歳・米国リックスカレッジ在学中)がいる。

各地のたより



● 湯沼ステーク部長の著した書物

神様から様々な助けと導きを受ける貴重な体験をすることができました。」

——結婚されたのは大学生のときですか。

「結婚したのは大学を卒業したその年ですね。2年間小樽の女子高校の先生をして、それから大学院に入り直したんです。大学院に入ったときは、もう長男が生まれていて、次男がお腹の中にいましたね。長男の手をひいて大きいお腹をした妻と一緒に入学式に行ったとき、『父兄の方は2階へあがってください』と言われた思い出があるんです。(一同笑)」

——赤ちゃんを抱えながら勉学にいそしみ、仕事もしなければならなかったということですね。みかん箱の上で勉強されたと伺ったのですが……。

「最初にふたりが住んだのは6畳一間で、共同の炊事場、共同のトイレといった本当に何も狭い所からのスタートでした。」

● 「君は君自身の道を進みなさい」

——大学院卒業後の進路を決めるうえで何かエピソードがごありますか。

「私が大学院の学生の頃、主任教授からいろいろな学校の教鞭のお話がありました。どこの大学に行きなさいとか、どこそこの高専の口があるとか……。でもその近くに教会がないんですね。支部長に召されて間もなく、遠くの国立大学からの話とかがあったりもしたんですが、教会のことを一番に考えて、やはり全部お断わりしました。ですから主任教授からは、『仏の顔は三度までだが、キリストの顔は何度だ』とずいぶん怒られました

ね。その先生には大変ご迷惑をおかけしたんですが、北大を辞めていかれるときに、『いつ酒をやるか、たばこをやるか、女に手を出すかとずっと見ていたが、君はみんなとは違って。君は君自身の道を進みなさい』と励ましてくださったんですね。また、かつて自分もクリスチャンだったと言われ、そのとき初めてその先生がどんなに自分のことを考えていてくださったかがわかって、とても感謝しました。」

——上のふたりのお子さんは伝道にも出られ、おひとりはずで帰還しておられますが、子供たちの信仰を育むうえで思い出深い経験などがごありますか。

「子供の成長段階で、大人も子供と一緒にいろいろな面で試練を受けますね。たとえば長男は中学生のとき、もう神様がいるかどうかわからなくなった、教会も本当かどうかわからないと言って教会へも行きたがらないときがあったんです。そのとき私は『今までは親の信仰で生きてきたけれども、これからは自分の足で立って信仰生活を歩まなくてははいけない。お父さんはお前がいつそれを言うようになるかと待っていたよ』と言ったんです。『お父さんは怒らないの』と聞くので、『うれしくて、うれしくて仕方ないよ』と答えました。そのような会話をしたこともあったんです。子供に信仰を強制したり、これをしないと罰を与えたりすることはしない方がいいと思いますね。」

● 家族の結びつきを強める 家庭の夕べ

——中学生、高校生ともなると、家族と話すのも親と出かけるのも嫌がるようになってたりしますが、ステーク部長のお子さんたちはどんな風でしたか。

(湯沼姉妹)「家庭の夕べをしていて、ひとりがなんとなく浮かぬ顔をしていたりすることがありました。それでも、みんなが本当に楽しくしていると、初めは嫌な顔で参加していても、いつの間にかつられて元の顔になっているということがよくありましたね。そういうむずかしい時期を通して、家族のありがたさや

互いに助け合うことの大切さを学んだと思うんです。一生懸命自立しようとしている時期なんですよ。」

——大学の仕事をあいても家庭の夕べに参加すると伺いましたが、家庭の夕べをどのように位置づけておられますか。

「先日、岩見沢でファイヤサイドが開かれたとき、子供たちが家庭の夕べについて聞かれたんですが、うちの子供たちはレッスンの内容を全然覚えていないんです。楽しかったのはリフレッシュメントだと言うんですね。(笑)教えるというのは、本当に口で言って身につくものではないですね。……家庭の夕べとは、一週間の本当に楽しかったこと、あるいはがっかりしたことなど家族みんなが持ち寄ってきて、みたまによってもう一度活気づけられ、家族の結びつきを強める時間、そういったものだと私は思います。」



● 「妥協し合ったり、 慣れ合ったりしないで」

——ステーク部長は多趣味でいらして、今若者たちに人気のある歌手の歌をよく知っておられたり、大学でもカラオケ大会に出場したり、ドラムを打つてみたり、また学生が製作する映画にも出演されたりと幅広くご活躍されていますね。

「私の信条としては、どんな職業、階層の人とでも10分間はその人の得意な分野の話ができる人間になりたいと思っています。チェッカーズの歌なども聞いたりしますし、学生たちと何かやるといえば、若い人たちの文化も勉強しなくてはなりませんね。それに元来人好きなんです。多くの人とコミュニケーションしたいわけなんです。『人の短を言うこと

各地のたより

なかれ。己の長を説くことなかれ』で、人間関係を大切にしています。」

——潟沼ステキ部長ご夫妻はいつでもお見かけしても、とても仲睦まじく、すてきなカップルだと思うのですが、おふた方のようにいつも仲よく愛し合っていくための秘訣があれば、お教えいただきたいのですが……。

「私は妥協しないことだと思います。親しいとか愛し合ってるっていうのは、さだまさしの歌ではないけれども『無理してつくろうものではないはず』です。ひとりの人間として、必死になって生きているから、お互いに助け合うところがあるんですね。たとえば妻は妻で、福音の中で子供を育てることや、教会の責任などで必死になって頑張っている姿や疲れている様子を見たりすると、とってもいとおしく思えるんです。私はそのようなきちんとした目をお互いが持っている方が、仲よくなれるのではないかと思うんです。まちがっていたらきちんと言うべきです。変なところで妥協し合ったり、

慣れ合ったりしないですね。」

(潟沼姉妹)「お互いに育った生活環境が違ってますから、これまで気持ちがひとつにならないときとか、しっくりいかないときが少なからずありました。そういうときには原点に帰り、最初の自分の気持ちを思い起こしてどういう経過で結婚まで導かれたかを考えますと、自分の間違っただ点にも気づかされて悔い改めることができます。そうしてもっと新しい気持ちで結婚生活に臨み、また違った見方で夫を見ることができたように思います。」

●「全世界に出で生きて……」

——最後に若い人々へのメッセージをいただけますか。

「若いときにしかできないことってありますよね。たとえば独身成人プログラムに出席すること、伝道に出ること、その年代にすべき勉強とか、あるいは自分の才能を見いだすこととかですね。最近



躍するようになってきましたね。斉藤由貴姉妹とか一、『全世界に出で行きて福音を宣べ伝えよ』というその精神を若い人たちにぜひ持ってもらって、自分の隠れた才能を見だし、伸ばし、各人の良いものを世の中でも教会でも一生懸命使って、充実した信仰生活を送っていただきたいです。とにかく福音や教会を恥とせず、堂々と胸を張って生きてほしいと思います。」

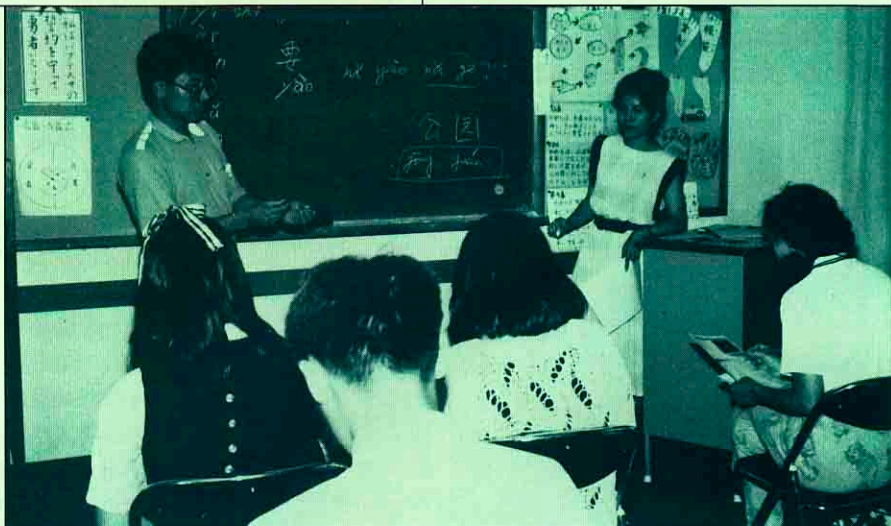


中華民国からの便り

日本留学中の結婚とバプテスマ

劉 明修

●京都洛北ワード部で中国語を教える劉ご夫妻



私は中華民国^{ピン}屏東で医師をしていた父の三男として生まれ、中興大学農学部^{ナン}南投の農林庁に勤めていました。しかし、仕事の関係上さらに研究の必要を感じ、京都大学に留学中の兄夫婦を頼って83年の12月、日本に渡りました。しばらく兄の所で世話になりながら、京都府立大学の大学院で昆虫の研究を続け、その傍ら、留日京都同学会の会長を

引き受けて、留学生の生活問題と国民外交に取り組んでいました。そんな折、同志社大学に留学していた^{リュウ}秋雪姉妹が副会長となり、一緒に仕事をしているうちに互いに好意を寄せられるようになりました。

^{フイ}台北生まれの秋雪姉妹は、女性政治家になることを本人、両親とも希望していたので、私との結婚は彼女の家族から猛

反対されました。しかし、いろいろ努力を重ねた結果、お許しをいただき、昨年の夏、台湾に帰って結納を交わし、学生結婚をすることができました。

秋雪姉妹は6年前、高校を出るとすぐに来日し、日本のある有力な政治家の尽力で永住権を得、日中友好関係の仕事に2年間携わりました。しかしこの結婚のために、彼女はその永住権を放棄するこ

各地のたより



●京都洛北ワード部で行なわれた割明修兄弟と割秋雪姉妹の結婚披露宴

とになってしまったのです。

ある日、大学院へ通う途中、京都洛北ワード部の無料英会話の大きな看板が目につき、この教会を知るようになりました。修士課程を終えたあと、博士課程を修めるためにハワイか、あるいは友人のいるソルトレーク・シティーの大学のどちらにしようかと迷っていたときだったので、この教会のアメリカ人宣教師にいろいろ聞けるかもしれないと思い、秋雪姉妹と共に英会話に通うようになりました。幼い頃よりキリスト教に対するあこがれを持っていた私たちは、宣教師の勧めるままにレッスンを受け、まず私が、今年の5月25日にバプテスマを受けました。そしてその3週間後には、アロン神権を受けた、私の手で姉妹にバプテスマを施すことができました。この感激は生涯忘れることのできないものです。

そして私たちは、姉妹と共に英会話のあとの7時45分から中国語会話を教えることにしました。私たちが英会話をきっかけに改宗したように、だれかが中国語を学び、それがきっかけとなって改宗するかもしれないと思ったからです。これにはたくさんの方が参加してくださり、思いがけず多くの友人ができて、日本でのよい思い出となりました。神様への感

謝と喜びでいっぱいです。

また、私たちの結婚披露宴を教会でさせていただいたときの兄弟姉妹たちの「親にも勝る」深い愛は、私たちにとって特に印象深く、忘れられぬものとなりました。金屏風、文金高島田の髪と美しい振りそでを破格に安くお世話いただき、姉妹の晴れ姿には私も思わず感激してしまいました。それに姉妹は私より日本語が上手なので、私は中国人と美しい日本人のふたりの妻を一度にももらったような錯覚を覚えました。

秋雪姉妹は、世界が真に理想的に治められることを願って、政治家を志望しています。「蒋介石^{シヨウカイセイ}総統も熱心なクリスチャンでした。私も立派なクリスチャン政治家になって、国に恩を返したいと思いません。学者である夫を助けながらも、家庭

だけの女性にとどまらず、社会にも貢献できたらと望んでいます」と言っています。

また、もう少しあとに残って勉強する彼女は、卒業までの半年間で、できるだけ教会の責任を引き受け、経験を豊かにしたいと考えています。

私は大学院も無事に終え、元の農林庁に就職も決まって、7月末、夏休み中の姉妹と共に帰国しました。京都洛北ワード部の兄弟姉妹の友情とすばらしい模範に接して帰国できたことは私たちにとって大きな喜びです。クリスチャンとして、福音のすばらしさを、モルモン経の真理を多くの人に伝えたい気持ちでいっぱいです。日本での貴重な体験を生かして、教会に、国に、ともに貢献したいと思っています。(リュウ・メイシュウ 1957年生まれ)

★新聞からの話題★

日米英語討論ツアーに参加して

—全米12州25大学を訪問—

福岡ステーキ部北九州ワード部 武井 耕一

私は、今年の2月から4月までの間、日本学生の代表として、日米英語討論ツアーに参加してきました。この討論ツアーは、日本英語スピーチ協会と米国スピーチコミュニケーション協会の共催によるもので、2年に1度、日本の学生の中からふたりが選ばれ、アメリカに派遣され、大学において学生たちと英語で討論を尽くしたり、大学の授業に出席するというものです。

このツアーのおもな目的は、日本学生の討論能力をアメリカ人に知ってもらうことと、日米の学生レベルでの交流を深めることでした。ここで言う「討論」とは、英語で「DEBATE」（ディベート）といわれ、私たち日本人にはあまりなじみのないものです。私自身大学に入学し、英会話サークルに入ってから「ディベート」を知りました。試合形式で、ひとつ

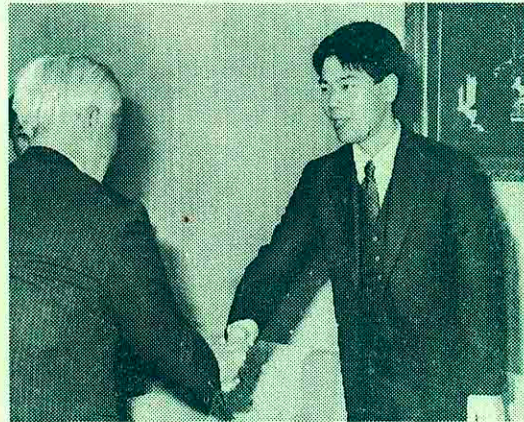
の論題に対して肯定派と否定派に分かれて議論し、どちらがよく議論を發展させたかによって勝敗を決めます。自分自身の考えとは関係なく、肯定派もしくは否定派の立場に立たされて議論しますので、どちらに立ってもいいように準備をしなければなりません。

今回のツアーでは、「貿易摩擦」と「非核三原則」について議論しました。たとえば「貿易摩擦」の場合、「日米はすべての貿易障壁をなくすべきだ」という議題のもとに、それを肯定する側と否定する側に分かれ、自由貿易と保護貿易の利点欠点を議論しました。こういった討論を通して、問題の批判的思考や自分の考えをよく整理して人に伝えることを学ぶことができます。アメリカの高校や大学では、ディベートが授業の一環として取り入れられています。

各地のたより

●(右)「読売新聞」昭和61年2月22日付
 ●(右下写真)「ザ・ノース・アイダホ・ハンドル」1986年3月8日付より転載

日米英語討論ツアーの日本代表一人のうちの一人に小倉南区北方三の二八の三、北九州大学学部四年、武井耕一さん(三) (和歌山・那賀高出身)が選ばれ、二十六日から四月二十一日まで、米国の学生と討論しながら全米を回る。



谷市長から激励される武井さん

約8週間で全米12州25大学を訪問するというとても忙しい日程でしたが、毎週日曜日には教会に集うことができました。ワシントン州、アイダホ州、カリフォルニア州、イリノイ州、オハイオ州、ニューヨーク州で教会に出席しました。残念ながらユタ州の大学には訪問できませんでしたが、全大学の訪問終了後の休暇を利用してワシントン神殿を見に行くことができました。

この旅行中に、いろいろな場所で教会員に会ったり、教会に対する評判を聞いて感じる事がふたつありました。第1に、アメリカの末日聖徒はとにかく数が多いということです。様々な土地を回りましたが、どこに行っても教会があるように感じました。聖餐会には約200人の出席があるのが普通ようです。聖餐の儀式でパンを裂くときに時間がかかるために、日本では4番までしかない讃美歌が6番まで歌われていたのが印象的でした。

第2に感じたことは、地域社会において、教会員は高い評価と信頼を受けているということです。会話の中で、私自身がモルモンであることを言うと、多くの人が好意的になったり、敬意を表わしてくれたりしました。アメリカでは、モルモンは頭が良くて、金持ちであると思われているようでした。この評価が望ましいか否かはわかりませんが、とにかく地域社会へも積極的に進出していく態度には、私たちも見習うべきだと思います。

私は現在大学院修士課程1年生ですが、ディベートは大学1年のときに始めました。通常ディベートはふたり1組で行なわれますので、よいパートナーに恵まれることも試合に勝つための重要な要素です。3年生のときの私のパートナーは、末日聖徒の女性でした。彼女はディベートはもちろんのこと、そのほかの生活においてもすばらしい人でした。彼女を通して教会のことをいろいろ知りました。彼女から教会の英会話や、ステーキ部大会で教会幹部の英語でのお話があることを聞き、教会にも行くようになりました。そのうち、私は何の抵抗もなく、レッスンを受け、大学4年の春にバプテスマを受けました。

英語討論ツアーは、日本語スピーチ協会と米国のスピーチ・コミュニケーション・アソシエーションの共催で、八年前から、英語がよくできる

英語討論ツアーは、日本語スピーチ協会と米国のスピーチ・コミュニケーション・アソシエーションの共催で、八年前から、英語がよくできる

学生を選び隔年で両国を相互訪問している。応募者はE・S・S(英語研究会)に所属、各種の大学で実績をあげている人が対象。訪問費用は全額主催者負担。海外旅行をしながら英語の勉強ができるだけに武井さんは英語討論大学ジュニア西日本大会に優勝した二年前に応募しようと思ったが、実績不足から断念。二年後に照準を合わせて勉強し、五十九年六月に英語討論大学全国大会で優勝したのをはじめ、半年後には七隈杯中国、四国、九州大会も制覇、実績を積んだ。昨年十一月に申し込んだところ、独協大学三年の青沼智さんとともに日本代表に。ツアーは青沼さんと二人一組になりワシントン、カリフォルニア、オハイオ州など一

英語で「丁発止」
米討論ツアー
代表に北九大生
武井さん 難関突破、26日に出発

十八の大学を回り、米国の学生と「貿易摩擦」「核軍縮」をテーマに討論したり、日本文化について話し合っほか、訪問先の大学で授業も受ける。
 二十一日、谷市長を表敬訪問した武井さんは、谷市長の「体に気をつけて頑張ってほしい」という激励に「海外旅行は初めてですが、十分に学んできた」と話していた。
 武井さんは帰国後、北九大の大学院法学研究科に進学、卒業後は国際協力事業団への就職を希望している。
 同大のE・S・Sは昨年秋には「第二十六回I・E・C杯全国大学英語討論会」で二度目の優勝を果たすなど活躍が続いており、学内では喜びに包まれている。



マイスクールの子供たち④

「マイスクールの子供たち」④の『道草』は6月号でも触れた伊藤勝也兄弟の記事です。彼は、すでに心の自立を果たし、教会を愛し、天父の戒めに添って歩み、マイスクールの生徒たちにとってもすばらしい神権者でした。しかしご家族の理解が得られず、5月の末には新居浜支部へ来れなくなり、ついに強制的に神戸の親類の元へ行かされてしまいました。

それまでは彼女が英会話サークルの中で唯一の教会員でしたが、今では、多くの人が教会のことを知るようになり、会員5人、求道者5、6人にまでに成長しています。

ツアーが終わった後、いろいろな大学の英会話サークルやディベート大会で審判や指導をすることがあります。そこで出会う人はほとんど知らない人ですが、こちらから積極的に握手をし、話しかけるようにしています。周りの人によい印象を与えることによって、教会のことがよく思われるようになればと思います。

また、来年の4月に伝道に出る準備を進めています。今回の旅行を含め、改宗してからこれまで神様からたくさんの祝福を頂きました。その祝福に伝道によって報いたいのです。この経験によっておごることなく、謙遜になるためにも人に仕える人、神に仕える人である宣教師になりたいのです。天父は、私たちが成長するために数多くの機会を準備してくださっており、それを果たすために必要な助けと導きを与えてくださることを証明いたします。(たけい・こういち 1964年生まれ、北九州ワード部幹部書記)



明日を回す

<4>

高校三年生A君(八)の「道草」は去年四月、新学期に入ってから間もなく始まった。朝食を当たつてもらったが、無条件に転校を認められる高校に転校しようとした。A君は両親を「早く行かない」とせき立てる母親で、「もう間に合わないで休む」と言張って、ついに腰をあげなかった。はつきりしたスル休みは初めてだった。翌日も、翌日もA君は休み続けた。

登校拒否は一月以上続いた。中間テストが始まった。母親は父点になるのを避けるため、知り合いの医者(一週間くらい)の休養が必要という診断書を書いてもらい、学校に届けた。一方で、次第に無口になるのを心配した両親は「どこか悪いのでは」と脳波検査に連れて行ったりした。

学校を変わりたい
五月中ごろ、A君は「学校をかわりたい」と思うようになった。神戸の知人に転校先を見てもらったが、無条件に転校を認められる高校はなかった。A君も両親は「早く行かない」とせき立てる母親で、「もう間に合わないで休む」と言張って、ついに腰をあげなかった。はつきりしたスル休みは初めてだった。翌日も、翌日もA君は休み続けた。

登校拒否は一月以上続いた。中間テストが始まった。母親は父点になるのを避けるため、知り合いの医者(一週間くらい)の休養が必要という診断書を書いてもらい、学校に届けた。一方で、次第に無口になるのを心配した両親は「どこか悪いのでは」と脳波検査に連れて行ったりした。

道草

進路で悩み登校拒否

藤谷さんの第一印象は「明るい子だな」。下級生の勉強を見てやる姿には、登校拒否児の影はなかった。藤谷さんは「この子は大丈夫だ」と確信したうえで、母親には「A君を信じてあげて下さい。A君は病気で何もありません。病院へ連れて行くなんてとんでもないことです」と説得した。また、A君の話しかける言葉はすべて受けとめて一緒に考えた。しばらくして、A君が藤谷さんに打ち明けた登校拒否の理由はこうだった。

理科の好きなA君は、一年に行きたいA君は「学校行くかずに自分で勉強した方が受験の早遅だ」と思い続けた。三年になると、理科系文系系の授業内容はさに分かれたいまも文通は続く

A君は夏休み明けに休学届を出し、九月末から千葉の親せきの家で半月も働いた。それまでもやもやした気分をぶつ切ったためだ。現在は自宅ですべて自主学習中。コンピュータの本なら三時間ほどぶつ続けて読みふける。A君がその春、理科系のクラスに復学するかどうかはわからないうが、学校側は温かく見守ってくれているという。A君も「大学検定試験を受けてでも大学に行く」と張り切っており、藤谷さんとの文通は今も続いている。

A君の母親は、しみじみと話す。「ほくほく」の気持ちをおかしてあげるのが遅かった。病院へ行って子供は心は理解できない、と藤谷さんに言われた時にハッと思いました。何よりもほくほくのことを信じていきます」

すべて受け止め心開かす



小学生は2時間の勉強が終わったらゲームの時間、ハンカチ落としなども、自分たちで工夫を加える
—新居浜市徳常町で

思い直したけれど
マイスクールに来るようになって、A君は「高校は卒業したい」と思い直し、六月か七月二十日、藤谷さんに

ら再び登校を始めた。七月の期末テストではクラス平均の成績を修め、周囲を驚かせた。しかし、理科系で学べないという悩みは深かった。夏休みに入ると、それまで一月月ほど通ったマイスクールにもはつたり来なくなった。といっても、藤谷さんから離れたのではなかった。

A君から手紙が届いた。それには「ほくほく」を添えていました。でも、この道草は世の中にはいい人もあるんだなあ、ということも教えてくれました。これからほくほくは自分のことは自分で責任をとります。他人にはいいえまはかけません、もうあまよいません」と書かれてあった。

各地のたより

今はアルバイトをしながら予備校に通っているようです。しかし、彼から送られてくる便りでは、依然として教会に行くことはままならなくても、祈りを忘れず、神様への信仰は変わらないと言っていますので、必ずご家族の理解も得られ、教会へ再び活発に集えるときが来ると確信しています。

青年へ

あなたは気づいてないでしょうが
バプテスマの後
顔が どんどん輝きを増して
まぶしいくらいでした

優しい瞳
あたたかな心
謙遜なものごし
あなたによって 私も また
洗われていくようでした

そんな あなたを
迫害の渦が取り囲み
がんじがらめにしてしまいました
ああ……
手のない人間が
手のあることの幸福を知っているように
もし あなたを
苦しめるものが ないとしたら
あなたは
主を知る必要がないでしょう

忘れないでください
決してひとりでは ないことを
主が 共に いてくださることを

あなたは
苦しみ あがき
十字架を背負った分
人に愛を 多くあげられるはずです

どうぞ あなたは
あなたを 愛してください
多くの人々を 愛してください

私もあなたを 愛します

(高松ステキ部新居浜支部セミナー
教師・藤谷利恵子)



父の病気と 私の伝道

東京東ステキ部千葉ワード部
元札幌伝道部専任宣教師
谷 江理世

私 は84年の7月に札幌伝道部に召されました。それまでに伝道の大切さや宣教師のすばらしさなど、頭では理解していましたが、自分にはできないとかふさわしくないという気持ちから、周りの人々が一生懸命準備している中で、専任宣教師になることについてあまり積極的ではありませんでした。

83年の7月、どうしても保母の資格を取りたいと考えて勉強していた頃、試験の2週間前になって父がガンで入院しました。手術をしましたが、腸に転移していたので、3カ月後に再手術をすることになりました。神殿の祈りの中に名前を入れていただいたり、自分自身で祈ったり……、不安はありませんでした。心の中に人間の生命には神様のみこころがあるという思いがわき、どうぞみこころが理解できますようにと祈りました。

10月になって、驚いたことに父のガンがなくなっていました。そのときから私は神様にお礼をするためには、伝道に出ることが必要なのでは、と考え始めました。そして翌年の2月、三戸ワード部の窪田監督との面接で「神殿で祈ったとき、あなたが伝道に出ることは必要だと感じました」と聞かされ、決心が固まりました。

私の家族は父と弟と私の3人でしたから、親戚や周囲の人々から見れば、病みあがりの父や弟を残して自分の好き勝手なことをして、と思われても当然だったかも知れません。そんな中で伝道に出るのはとても勇気のいることでしたが、もう決心の固まっている私は前に進んで行くしかありませんでした。しかし問題も多く、ジレンマに陥ることもしばしばでした。でも、以前に伝道に出たいと思ったときには全然話が進まなかったのに比べ、いろいろなことが少しずつ解決していくのを見て、「今が伝道に出る時期なんだ」とつくづく感じました。それでも弱い私はたくさんの方から助けをいただきました。その中でも家族からの助けと愛はとても大きなものでした。

JMTC(日本人宣教師訓練センター)では緊張の連続と同時に、霊が喜んでいのを強く感じながらレッスンを受け、ほかの人々との友情を深めていくうちに、宣教師としての実感がわいてきました。

札幌伝道部で宣教師として多くの経験をしました。自転車もろくに乗れなかった私でしたが、だんだん乗れるようになりました。また、みたまが共にあっているいろいろな方法で導かれていきました。私たちが神様のみ手として使われることがよく理解でき、うれしく思いました。同僚、求道者、教会員、お休み会員、家族など私たちが愛を示すべき人はたくさんいます。そしてあきらめずにいつも神様に祈り、行動するときには多くの良い結果を見ることができました。求道者がみたまによって心を動かされ、顔が変わるのを見たときは、とても感動しました。

そうしているうちに1年がたち、8月の末に弟から、父の具合が急に悪くなっ

各地のたより

たと連絡がありました。一週間ほどして「今度はガンがひどくなっている、あと半年くらいしか生きられないと言われたので帰って来てほしい」という電話がありました。一瞬のうちに頭が混乱し、動揺してしまいました。

マンズ伝道部長と面接したとき、彼は「家へ帰ってあげなさい」と言われました。宣教師として任期を3カ月早めるのは、神様の仕事が未完となってしまうという罪悪感がありました。でも伝道部長から「谷姉妹、あなたは全部ではなくても1年以上もこのすばらしい神様の業に働いたことは本当に大きな祝福ですよ」と言われ、伝道できたことに対してもっと感謝の気持ちが必要なのだと感じました。

そして10月に帰ることになりました。それは家から電話があったとき、ちょうど私が感じた時期でした。伝道部長は「それはみたまの助けですよ」と言われ、私はその言葉で父のため、また心細く思っている弟のためにも帰ることを決心しました。

家に戻ると家の引っ越し、父の入院、退院など、毎日が忙しく過ぎました。11月に入って父はもうあと1カ月しかもたないと先生に言われました。父の希望で11月の終わり頃退院しましたが、そのあと一週間して父は亡くなりました。12月5日の朝、父は苦しまずに、眠ったように安らかに息を引き取りました。

もし3年前に父のガンが消えていなければ、私は伝道には出られませんでした。そして伝道を3カ月短くしなければ、父の最期に側にいてあげることもできませんでした。私は伝道中、祝福文の今まで全然気づかなかった部分に、伝道について書かれていたことがわかりました。そして私の伝道中、父が何かの力でずっと守られていたことに神様の愛を感じました。

伝道に出るときは、監督が靈感を受けて勧めてくださり、伝道から帰るときは、伝道部長が靈感を受けて帰るよう勧めてくださいました。本当に神権の力はすばらしいと思います。

今年の3月23日、今ではたったひとり

の家族である弟がバプテスマを受けました。父が亡くなってから少したって、とにかく宣教師に会ってもらえれば、彼が準備できているかどうかかわかると思い、家でクリスマスパーティーをしました。弟はもう準備ができていて、謙遜にレッスンに耳を傾け、そして自分で決心をしてバプテスマを受けました。彼はレッスンしてくださった宣教師をとて尊敬し、またよい影響を受けています。そして今

神権者として共に教会に集えることを感謝しています。

来年になれば、弟と一緒に神殿で父と母の結び固めができるので、とても楽しみにしています。伝道の経験は私にとって何にも代えがたい大きな力となりました。伝道に出るために準備をされている兄弟姉妹の上に神様の助けと導きがありますように心から祈っています。(たに・えりよ 千葉ワード部図書委員)

今はよき 実りのとき

— 苦楽を共にした夫
との深い絆 —

名古屋ステーキ部
刈谷支部
寛元江



1975年3月21日、伝道から帰って間もない夫と結婚するとき、私はどんな苦難に遭っても決して負けず、夫を信じて最後まで耐えていきたいと決意しました。しかし、それが結婚生活11年の間にかくも試練を受けるとは思ってもみませんでした。

76年秋、夫は教師への転職を希望し、必要な健康診断を受けたところ、結核が見つかり、以後半年間にわたる入院生活となりました。その間に籍を置いていた会社が倒産し、退院後やむなく転職することになってしまいました。しかし、以後1年半、第一志望の教員には結核が災いしてなれず、生活のために働くという日々が続いたのです。

夫は仕事に、教会にと夜遅くまで頑張っていたにもかかわらず、続々と来る不運に、何ともやりきれない日々でした。そして私は、先の見えない不安定な状態のそのとき、次男を出産し連日の

苦しい試みの中で、何度も負けまいと祈りました。

私は15歳で改宗しましたが、若さ故に何度もつまずき、教会から遠ざかったときもたびたびありました。しかし、大学を卒業した年に、教会こそ一番の安らぎの場であると気づき、二度と信仰を捨てまいと決意しました。そして、夫との結婚は主のみこころにかなったものであると確信を得ていましたので、このように厳しい立場に立たされ、夫に対しても主に対しても不信感にさいなまれそうになりながらも、努めて信じようと自分に言い聞かせることができました。幸いにも私の両親は苦労人だけに夫の能力を見抜き、夫を信じて、「きつといい仕事につけるから、あせることはない」と、やさしく励ましてくれました。

経済的には、結核ということで夫の入院費はほとんど無料、生活費も入院前の給料の6割を休業手当という形で退院後

各地のたより

1年くらいまで国から支給され、生活を支えることができました。

78年の秋、念願がなつて夫がやっと教員試験に合格、翌年の4月、故郷の愛知県をあとに、兵庫県三田市に落ち着くことができました。そこは教会（西の宮ワード部）には少し遠く、不便ではありましたが、裏六甲の山々に囲まれ、自然も人の心も豊かな所でした。

4年間、貧しくも心豊かな日々をかの地で過ごしましたが、故郷への思いが募り、再び愛知県に戻りました。しかし、戻ってからは心落ち着く間もなく、次々と悲しい事が起こりました。

当時小学校2年生の長男のアトピー性皮膚炎の悪化と、それによる学校でのいじめ、さらには生後10カ月の長女の突然の死（急に体調が悪化し、4日後、吐乳を喉に詰まらせて窒息死）……などなど、気丈な夫も「この引っ越しは間違っていたのではないだろうか」と、悲しく言うほどでした。

私は特に長女の死が身にこたえ、復活を信じつつも、娘の遺影を見るたびに、苦しみとさみしさに心が沈みました。しかし、葬儀の折、遠く西の宮の方からも駆けつけてくださった多くの方々や家族の愛に応えるために、一日も早く心の傷を癒し、立ち直りたいと祈りました。

長男についてもいろいろな方の助けをいただくことができました。名古屋のよい医師を紹介していただき、少しずつ快方に向かっています。いじめも先生方や近所の人と話し合ったり、いじめっ子本人とも会うなどの努力の積み重ねが効を奏したのか、少しずつ解消され、また8カ月後、新居への転居と同時に完全に解決しました。

さらには娘の代わりにと望んでいた第5子も、娘の死後1年3カ月で四男として誕生しました。今、この四男の連日のいたずらに家族全員悩まされながらも心から笑える日々を送っています。

娘の死後1カ月後に、私たち家族の結婚以来の夢だった家を買う話が具体化し、近所の方に当時住んでいたアパートのすぐ近くの土地を紹介していただきました。夫婦でよく祈り、私たちにふさわしい所

であるとの確信を得ましたので、思い切って購入しました。環境はもちろん、日常生活や教会活動の面でも良い条件に恵まれております。自分の家より広い畑が無料で借りられ、手作りの無農薬野菜もかなり取れるようになりました。この引っ越しのうれしさと忙しさで、私は娘のことで思い詰めていた気持ちもずいぶん和らぎました。これも試練のあとの祝福だったと思います。

私も夫も教会の責任を、心身ともに余裕を持って果たせるようになりました。この11年間に私たちはいろいろな試練に遭いました。しかし、その都度主は必要な知恵と助け手を与えてくださったので、乗り越えられない壁はありませんでした。

私は本当の豊かさとは、たくさんの物にあふれた生活ではなく、ささやかな物や小さな親切にも感動でき、喜べる生活にあることに気づきました。祈りのある生活からは未来が開け、心からの奉仕からは、必ず犠牲が伴うものですが、その犠牲により心が清められ、すがすがしい喜びが得られることを体験しました。

これらの経験を通して、私たちはたくさんのおいしい実をいただきました。そのひとつは、苦楽を共にした夫との深い絆です。そして出世に捕らわれず、信仰に忠実に生きたいという夫の生き方を、今は素直に受け入れられるようになりました。（かけひ・もとえ 1949年生まれ、刈谷支部初等協会第一副会長）

名古屋西ステークス部高畑 ワード部教会堂の完成

敷地面積：615.34㎡
建築面積：240.15㎡
延床面積：456.35㎡

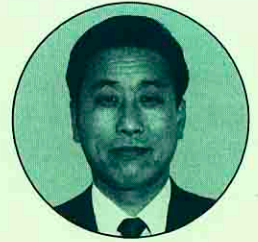


昨年の10月6日、断食安息日の午後、堀田ステークス部長管理の下に多くの会員の長年の夢であった献堂式が挙行されました。1972年2月、名古屋駅前の中央卸売市場の2階の一室に名古屋西支部（後に名古屋第3支部となる）が誕生してから13年の歳月が流れました。交通至便な場所柄もあって、会員の多くは遠い地域から集っていましたが、私たちの

願いは早くこの地域に教会堂を建てることでした。

当時は現在と違って建築資金のチャレンジが多額で、達成することは容易ではありませんでした。そんな中で、ご自分の結婚資金のほとんどを献金された姉妹もいました。また会員が一丸となって古新聞やアルミ缶、鉄くずなどを集め、建築資金をためたこともありました。土地

各地のたより



高鳥雄三監督

●高畑ワード部所在地：
〒454 愛知県名古屋市
川区荒子町5丁目14番地
TEL. 052(351)8845

購入のための申請や、物件も何度も見ていただきましたが、良い返事はなかなか頂けませんでした。私たちは共に断食し、祈りました。また、支部の皆さんに毎日の個人の祈りのなかにも入れていただくようお願いしました。しかしながら、その祈りは長い間答えられませんでした。

半ばあきらめていたそんなある日（西支部誕生から12年たち、名古屋第3ワード部と改名されていた頃）、当時の大久保監督から土地を購入することが許可され、教会堂が建つと聞かされたときには、その場にいただれもが飛び上がらなばかりに喜びました。

ほとんど同時期に名古屋、名古屋西ステーキ部内にいくつもの教会堂が着工されました。これまで名古屋駅前にあった集会場は、名古屋、名古屋西ステーキ部にとって重要な拠点でした。しかしみ業の発展に伴い、それぞれの地元でいくつもの立派な教会堂が建設された今、駅前この建物は名古屋インスティテュートハウスとして改築され、両ステーキ部の若人の学びの場として大きな役割を果たしています。

伝道の書第3章1節のなかに「^{あめ}天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」とあります。私はこ

の経験を通し、すべてのことを知りたもう主は生きておられ、主ご自身がこのみ業を進めておられたもうことを身をもって知ることができました。

主は私たちを愛してください、こんなに美しい教会堂を与えてくださいました。この地域に住むすべての人々に主の祝福があつて、悔い改めて福音を受け入れ、清められて教会堂に入り切れなくなるほどたくさんの方々が集う日が早くくるよう願っています。（高畑ワード部監督・高鳥雄三）

編集室から

《原稿を募集しています》

●本誌12月号で「我が家の家庭の夕べ」をテーマとした特集を予定しています。皆様のご家庭ではどのような家庭の夕べを開いていますか、特に工夫していること、思い出に残っている家庭の夕べなど、その様子を手記にしてください。また、できれば家庭の夕べをしているご家族の写真も同封してください、字数は自由です。応募の締切は10月13日必着です。

●各地のたよりの原稿を募集しています。改宗談や日々の信仰生活で得た証、本誌を読まれたの感想文、カットなどをお送りください。

●12月号掲載分の締切は10月13日（必着）です。投稿には必ず連絡先（電話番号）と教会での責任（役職名）、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

●あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

渋谷ブックセンターから

《ビデオカセット価格変更のお知らせ》

●以下のビデオカセットが8月1日より値下げとなり、お求めやすくなりました。

★ビデオカセット①（「幸福の探求」「わが栄光」「イエスの歩まれた道」「堅固な家庭」「ジョニー・リンゴー」「山の強さのため」の6本）120分。VHS用・β用 8,500円→4,500円（新価格）

★ビデオカセット②（「最初の示現」「古代アメリカは語る」「3人の見証者」「耳をすまして」「価値ある者」の5本）120分。VHS用・β用 8,500円→4,500円（新価格）

★ビデオカセット③（「モルモンとは」「全世界に出て行け」「天の窓」の3本）90分。VHS用・β用 8,000円→4,000円（新価格）

☆ビデオカセット④ 新発売（「若人のために」「神権の回復」「主の宮居」「われら死すとも」の4本）110分。ストックナンバー：VNW 0995JA VHS用 4,500円

「ロビーとうまくやれるといいわね。」書記の姉妹が、新しく受け持つことになった初等協会の狩人クラスの名簿を私に手渡しながら言いました。だれかがそれを聞いて私に同情しました。別の姉妹もうなずきました。そして、ロビーの前の教師がこれまでの彼のやんちゃを話し出そうとしたので、私はその場を失礼しました。

意外でした。学校なら教師が生徒に「良い」「悪い」のレッテルを張ることもあるでしょうが、初等協会の子供たちにそんなことをしてはなりません。

その夜のお祈りのとき、私は天父の子供たちに教える機会をいただいたことを感謝し、特にロビーについて助けを願いました。導きを求め、そして、ロビーを理解し、また彼に対する周りの人たちの良くない気持ちが改まるように、自分ができることは何でもしますと天父に約束しました。

次の日曜日、ロビーのお母さんが私をわきへ呼んで、ロビーに落ち着きがないことを話し、協力を申し出てくださいました。悪さをしたら教えてくれれば、家

で叱る言うのです。私はお礼を言いましたが、今年は違うようにしたいと思っていることは話しませんでした。

初等協会が始まって1、2週間は問題なく済みました。ロビーに手を焼いたというのはどうしてかしらと思いました。きらきら輝く青い瞳はちやめっ気いっぱいでしたが、クラスのじゃまはしませんでした。答えは何でも知っていて、ほかの少年たちは彼についていくのが大変ななようで、よくみんなからあてにされました。ロビーはそうして注目されるのが楽しみで、わざとひけらかすことも目立ちました。

しばらくして気づいたことがありました。ロビーひとりにではなく、7人の生徒みんなにそれぞれ問題や欲求があるということです。それで毎週、大切な福音の原則を教えながら、彼らが必要としていることを何とか満たそうと努めました。

一番大変なのは、ロビーよりもむしろスチープンでした。スチープンは理解が遅いのです。いつも5分から10分遅刻して来て、後ろの隅にひとりで座っていました。ほかの子たちから、からかわれた

り、ばかにされたりしていました。彼は受け入れてもらいたいし、友達も欲しいため、毎週毎週じっと黙ったまま、それに耐えていたのです。

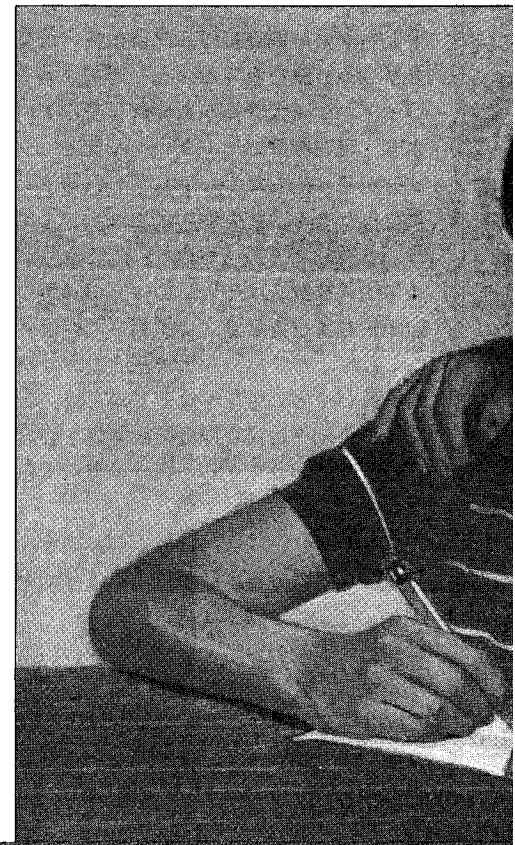
ある週のことでした。スチープンが部屋に入って来ると、空席は少年たちのちようどまん中にひとつしかないのを見て、顔が明るくなりました。ところが、子供たちはその椅子をさっとつかんで後ろの隅へ移し、スチープンはまたひとりで座ることになったのです。

私は何も言えませんでした。何を言ったらよいか、どうしたらよいかはわからなかったからではなく、みたまが、そのままにしておきなさいと告げたからです。子供たちを叱りたかったのですが、制するものを感じたのです。とても信じられないことでした。私はそのまま何もなかったかのように、レッスンを続けました。

その週の間、自分のクラスに対する失望感がわだかまっていました。どうしたらスチープンを励ましてあげられるか、わかりませんでした。ロビーはそろそろ手にあまりそうになっていましたし、ほかの少年たちの必要を満たしてあげる方

ロビーを知って

レオナ・ヘイグ



法もわからないままでした。祈りましたが明確な答えはなく、ただ万事はうまくいくという確信があるだけでした。

翌週は開会行事の間、ロビーが特に静かにしていらなくて大変でした。6人ものわんぱく少年を狭い教室に連れて行くのがこわくなりました。スチープンが入って来て、またあの暗いまなざしを目にするのが恐ろしいような気持ちでした。

私は生徒より先に、教室に着きました。ドアを開けたそのときです。きょうこそが問題終結の手始めになるというひそかな自信が感じられたのです。

少年たちが駆け込んで来て、丁寧に並べてあった椅子を勝手に動かし、着席しました。私は何か言おうとして立ちあがりました。何を言うかはっきりわかっているはずなのに、口から出た言葉に少々びっくりしました。

これから、クラスにお話の時間を作りますと言っていたのです。学校でのことでも何でも自分たちの話したいことを、スチープンが来るまで話すのです。私はそのあと、スチープンを受け入れて友達になってあげることが必要だと説明しま

した。彼らにとってもスチープンが必要なることを話しました。

スチープンがドアを開けて、頭を一層低く垂れて入って来ようとしていました。するとロビーがはじけるように立ちあがって、スチープンを両腕で抱え、引っ張ってきました。みんなで席のまん中に座らせました。何のためらいもなく、彼を歓迎するのです。スチープンはうれしそうに笑いました。

ロビーがワークシートを一番に終えました。いつものとおりです。そこで私は、スチープンを手伝ってあげるようにと、小さな声で頼みました。

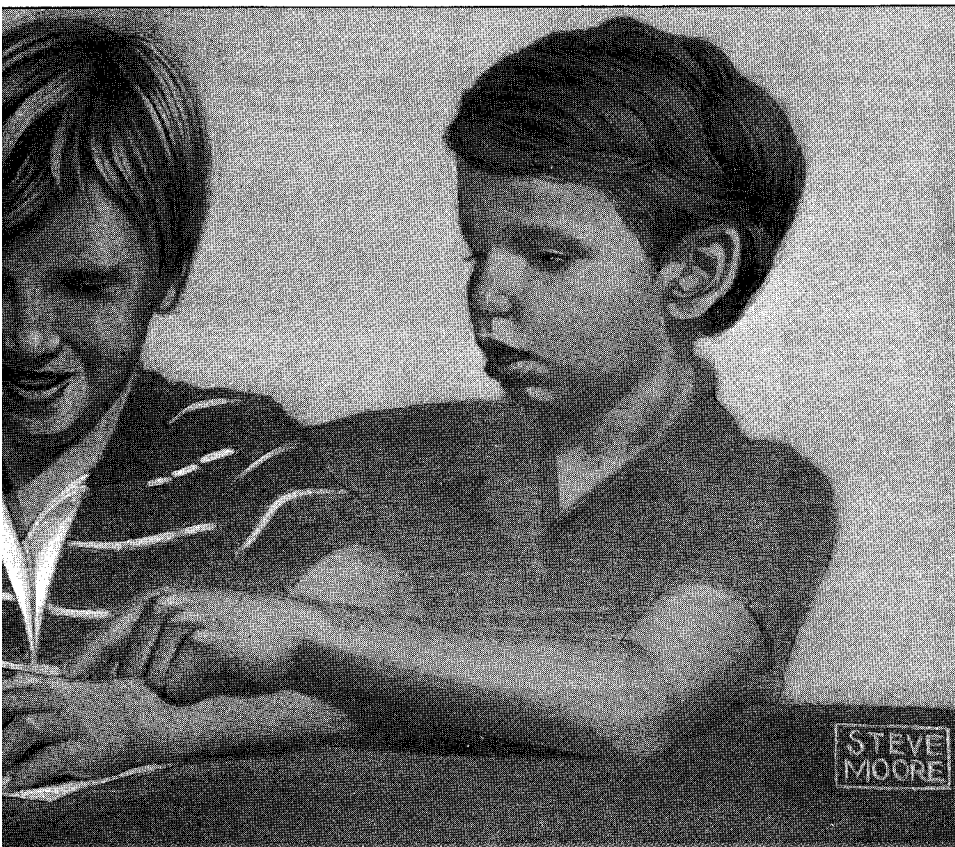
それ以来、年度が終わるまで、ロビーは頼まれなくてもスチープンを助けました。ある日曜日は、「予言者」という単語を書くのに10分近くもかけて奮闘していました。熱心なあまり自分のワークシートを忘れていたこともありました。スチープンの努力をほめたり励ましたりしていました。彼の良い影響がほかの少年たちにも及んで、ロビーが欠席したときは、みんな我先にスチープンを助けようと思いました。

ロビーのお母さんからどんな様子ですかと尋ねられたとき、私は彼がスチープンと一緒にやっていることをお話ししました。ロビーはお母さんの誇りですねとお話ししました。顔を輝かせたお母さんは、本当は息子は問題児ではないことがわかっていたのです、とはっきりおっしゃいました。

そして、スチープンのお母さんからクラスでのスチープンの様子を尋ねられたとき、彼はクラスのみんなから愛されていますと心から答えることができました。以前はたびたび仲間はずれにされていましたが、初等協会のクラスでのみたまの導きのおかげで、少年たちは彼を受け入れ、スチープン自身も自分の価値を知ったのです。

祈りに応えてくださり、未来ある子供たちの成長に役立つ機会と靈感とを与えてくださったいつくしみ深い天父に、心から感謝しております。

*レオナ・ヘイグ：ユタ州ウエスト・パウンテフル第7ワード部扶助協会副会長



それ以来、年度が終わるまで、ロビーは頼まれなくてもスチープンを助けました。ある日曜日は、「予言者」という単語を書くのに10分近くもかけて奮闘していました。

質・疑・応・答

●本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

末日聖徒は メルケゼテフ神権の 権能の教義を 聖書によって 立証できますか。



解答者

ジェームス・A・カーバー

ワシントン大学インスティテュート教師

教会を批判する人々はときどき、聖書の中のマタイ伝とヘブル書のふたつの聖句を取りあげて、末日聖徒の神権の権能の教義を問題にします。興味あることに、末日聖徒は同じ聖句を神権の教義の正しいことを示す箇所と考えています。しかし幸いにも、末日聖徒には近代の啓示が与えられているので、聖書のみによってこの神権やほかの教義を完全に理解しようとしているわけではありません。

最初の聖句であるマタイ伝16章13-19節は、カトリックの方々が、権能が使徒ペテロから現在の法皇に至るまで継続していることを立証するために引用されている箇所です。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか。』

彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだ言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言

っている者もあります。』

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。』

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』

すると、イエスは彼に向かって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。』

そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。』

ジョセフ・スミスは、教会が建てられる岩とは啓示であると説明しました。

（『予言者ジョセフ・スミスの教え』p. 274：5章2節『王国とそのもたらす実』参照）実に啓示こそがそのときの結論であったのです。ペテロは啓示によってイエスがキリストであることを知ったのです。「あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」（マタイ16：17）

聖書もまたこの解釈が正しいことを示しています。この節を原文どおりに解釈すると、王国の鍵はシモン・ペテロに与えられたけれども、教会は彼の上に建てられたわけではないことが明確になります。教会はペテロの上ではなくキリストの上に、啓示の「岩」の上に建てられたのです。

たとえば、ギリシャ語の聖書には18節の「岩」とは、ペテロではないと明確に述べられています。ギリシャ語で「ペテロ」は「ペトロス」で、小さな岩とか石を意味する男性名詞です。「この岩の上に」の「岩」に使われているギリシャ語は「ペトラ」であり、堅固な土台を意味する女性名詞なのです。ですから、ギリ

シャ語の聖書では次のようになります。

「あなたはペテロ（小さな岩を意味するペトロス）である。そして、わたしはこの岩（堅固な土台の意のペトラ）にわたしの教会を建てよう。」

ここで言う大きな岩のかたまりである「ペトラ」とは、だれを指しているのでしょうか。答えは、Iコリント10：1-4にはっきりと述べられています。

「わたしたちの先祖はみな雲の下におり、みな海を通り、

みな雲の中、海の中で、モーセにつくバプテスマを受けた。

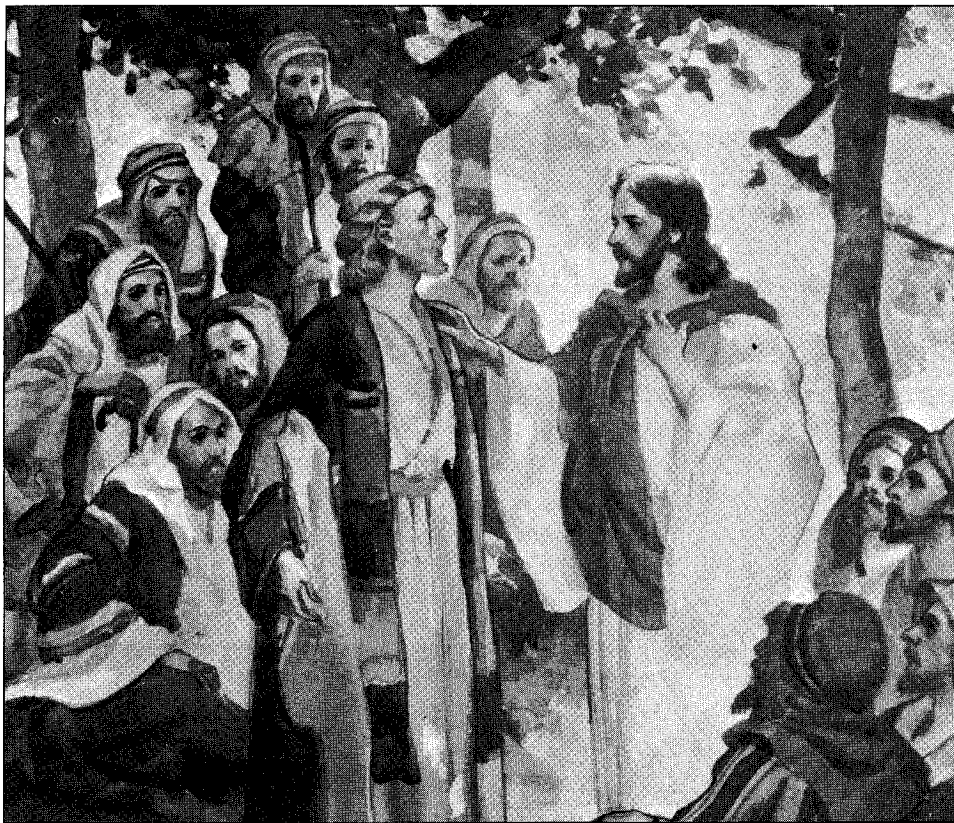
また、みな同じ霊の食物を食べ、

みな同じ霊の飲み物を飲んだ。すなわち、彼らについてきた霊の岩から飲んだのであるが、この岩はキリストにほかならない。」（下線付加）この節の「岩」に相当するギリシャ語は、マタイ伝の中の一節と同様に「ペトラ」（堅固な土台）です。ペテロではなく、キリストこそが「岩」であり、教会はその上に建てられるべきであったことには、何ら疑問の余地はありません。コリント人に対してパウロは、「すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである」（Iコリント3：11）と語っています。

しかし堅固な土台と岩（または石）との間にどのような重要な関係があるでしょうか。

シモン・ペテロが最初にイエスに会ったときに、主はシモンの名前を「ケバ、訳せばペテロ」と変えられました。（ヨハネ1：42）ジョセフ・スミス訳では、「ケバ、訳せば聖見者、または石」という明確な訳語が与えられています。

シモンに新しい名前が与えられた理由は、前述したピリポ・カイザリヤでの経験のときまで明らかにされませんでした。ブルース・R・マッコンキー長老は次のように説明しています。「救い主はペテロに王国の鍵を約束して、黄泉の力も啓示の岩、すなわち聖見者の力に打ち勝つこ



王国の鍵はシモン・ペテロに与えられたが、教会は彼の上に建てられたのではありません。それは啓示の「岩」であるキリストの上に建てられたのです。

とはできないと話されたのです。(マタイ 16:18) 聖見者とはウリムとトミムを使用する特権があり、過去・現在・未来を知ることができる特別に選ばれた予言者である。(モーサヤ 8:13-18 参照) (「新約聖書教義注解」 1:133)

山上の変貌の出来事は、ペテロの新しい聖見者としての務めにとって特に大きな意味がありました。ちょうどその山が啓示の岩であったように、ペテロが「イエスこそ生ける神の子であること」を知ったのは、啓示によってでした。小さな岩であるペテロは大きな岩、すなわち啓示の岩であるイエス・キリストから啓示を受ける「聖見者」となったのです。ペテロは王国の鍵を持ち、地上での主を代表する者となりました。彼は羊を養う者となったのです。(ヨハネ 21:15-17 参照)

イエスはペテロに対して、王国の鍵を維持するために地上には常に聖見者が存在するとは言われなくて、「黄泉の力」も「この岩」(ペトラ)、すなわち啓示の岩に打ち勝つことはないと言われました。マッコンキー長老は次のように説明しています。「ここでイエスはペテロに対して、黄泉の力は啓示の岩に打ち勝つこと

はない、すなわち聖徒たちが天から啓示を受けるために正しい生活をするならば、彼らは黄泉の力を避け、教会は純粋で汚れを受けず、あらゆる悪に対して安全な状態にいることができると語っておられる。しかし、罪悪のために啓示がやむときには、黄泉の力が人々に打ち勝つのである。」(「注解」 1:389)

カトリックの方々は近代の啓示の原則を受け入れません。法皇は「岩」から啓示を受ける「聖見者」とは考えられていません。プロテスタントの方々は、教会はペテロの上に建てられたのではないという結論に達しており、「ペトروس」すなわち王国の鍵を持つ聖見者の務めの重要性を認めておりません。私たちは末日聖徒として、この聖書の中の重要な出来事の本当の意味を知っており、実に祝福されています。エズラ・タフト・ベンソン大管長は現在の聖見者であり、予言者、聖見者、啓示を受ける者です。

それでは、問題となる 2 番目の聖句に移りましょう。プロテスタント教会の方々の多くはヘブル書 7 章を引用して、教会にはイエスのほかに神権は必要ではなく、イエスのみがメルケゼデク神権を所有していたと主張しています。

ルターがカトリックの聖職者に反抗したときに、彼は「信じる者はすべて聖職者」という考えを展開し、全人類の完全な祭司であるキリスト以外には、神との交流のために特別な聖職者は必要ではないと主張しました。(注 1) 本質的には、ルターはキリストによる以外には神権は存在しないと言ったのです。クリスチャンは救われるために、神権も神権者も必要ではないと語りました。

パウロはヘブル人にあてた手紙の中で、読者がすでにメルケゼデク神権についての知識を持っていることを承知のうえで話を進めています。パウロの手紙の目的は低位の誓約(モーセの律法)よりも高位の誓約(福音の律法)が優れていることを証明することだったのです。7 章の中では彼は高い律法を管理するメルケゼデク神権の方が、低い律法を扱うアロン神権、すなわちレビ神権より優れていることを示しています。

この章の中には神権に関して次のような基本的な原則が述べられています。メルケゼデク神権によって完全になれることや(11-12 節)、メルケゼデク神権がひとつの血統に限定されるのではないこと(13-15 節)、神権が永遠であること

(16-17節)、誓詞と誓約によって神権を受けること(20-21節)、キリストの神権が永遠に機能する(27-28節)という考えが含まれています。

この章は、予表論の立場から最もよく理解できると思います。すなわち、偉大な大祭司であったメルケゼデクはキリストの予表であり、同じくメルケゼデクとその民が保持していた神権の位は、イエス・キリストと弟子たちが持っていた神権の位の予表だったということです。

24節はおそらく最も誤解されている所で、今までかなりの議論を引き起こしてきました。混乱の原因は、「しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである」の「変らない」と訳されているギリシャ語の言葉にあります。

欽定訳の翻訳者が、「変らない」という言葉に対して、脚注として欄外に「すなわち他の人には渡らない」という説明をしたことから混乱が生じているのです。この訳によって、ルターは神権の行使はキリストによってのみなされ、神権はほかの人には渡らず、教会には形式的な神権はないと主張しました。その訳語の適格性や解釈の妥当性が証明されていないにもかかわらず、多くの注解書や辞書はその欄外の説明が正しいと主張しようとしています。

「変らぬ」という言葉はギリシャ語の「アパラトン」を訳したものです。古代ギリシャにおけるこの言葉の使用法は何年間も調査されてきましたが、私が知る限りではどの学者もこの言葉が「他の人に渡すことができない」という意味で使われている信頼できる例を見つけたことはありません。しかし、「変らぬ」とか「不変の」という意味に使われている例は数多くあります。そのためギリシャ語の語法によれば、最良の訳は「変らぬ」ということになったのです。

たとえばキッテルの「新約聖書神学事典」の結論では次のようになっています。「『渡すことができない』という訳語例がないので、もっと『変らぬ』という訳を守るべきである。」(注2)ギリシャ語表現法をまとめたモールトンとミリガンの

「ギリシャ語聖書用語集」では、「近代文学と比較すると、『渡すことができない』という訳語は明らかに不適當である」(注3)とあります。

ヘブル書の章の前後関係から見ても、「変らぬ」という訳語は適切ですが、「渡せない」という概念は受け入れられませんが。著者は7章の書き始めで神権の永続性を強調しています。メルケゼデクは「いつまでも祭司なのであり」(3節)、彼は今なお「生きている」(8節)のであり、ほかの祭司は「朽ちることのないのちの力によって」(16節)、「永遠に祭司である」(17, 21節)、「しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。」(24節。下線付加)

前後関係から神権が「渡すことができない」ということを示す箇所はありません。神権は永遠であり、罪悪による以外には神権者からは決して取り去られることはありません。ある意味において、人は決してその神権をほかの人には渡しません。それは彼のものであり、「変らない」すなわち永遠のものなのです。しかし、これは権威ある者より要求されたときに神権をほかの人に授けられないということではありません。

神権はひとつの「位」として組織されており、キリストは「メルケゼデクに等しい」祭司でした。(17節)メルケゼデクが「神権の位」にあったという事実は、イエス以外にも神権を持っていた人がいたということです。もしもキリストのみがメルケゼデク神権を持っていたとすれば、「位」の必要はありません。

これらの結論が正しいことは、ニケア以前の司教たちによっても明らかです。

紀元135年に死んだアンテオケの司教であったイグナチオは次のように述べています。「神権とは人類の間のあらゆる良き地位のうちでも最も高い位置にあり、それに対して戦いを挑むほどに狂っている者はだれであっても、人に不名誉を与えるのではなく、生まれながらにして長子にして唯一の大祭司である神、イエス・キリストを侮辱することになるのである。」(注4)

ここでイグナチオは、キリストは天父の唯一の大祭司であると述べています。しかし彼は、「神の御子の神権の聖なる神権」(教義と聖約 107: 3)であるメルケゼデク神権を受けた人々については何も語ってはいません。彼はまた「生まれながらにして」神権を持つキリストの権利と、「聖任によって」神権を受ける人々を区別しています。キリストにとっては生まれながらの神権ですが、ほかの人々にとっては「すべての良きもののうちもっとも高い地位」なのです。

紀元約168年頃にアンテオケの後の司教となったテオピロは、メルケゼデクという人物について次のように語っています。「その当時、現在のエルサレムであるサレムの町にメルケゼデクと呼ばれる正しい王がいた。いと高き神のすべての祭司の中でも最初の祭司であった。そのときから地上の至るところに祭司が置かれるようになったのである。」(注5)確かにテオピロの心にはメルケゼデクの「位」があったのです。

メルケゼデク神権の位の知識は、聖書の原典から失われてきました。しかし私たちは近代の啓示によって、救いと永遠の生命のために不可欠な神権についての、簡潔で貴重な真理の回復を目の当たりにしています。神権はなくてはならないものであり、私たちを完成へと導く神の力なのです。

この記事では、神権に関する聖書の聖句を全部引用することせず、多くの聖書研究者に誤解されている点に焦点を当てて説明しました。

注

1. ウィリアム・ホーデルム「一般信徒のためのプロテスタント神学入門」1955年、ニューヨーク、マクミラン社、pp. 29-30
2. ミシガン「大きな急流」エルドマンズ出版、1967年、p. 743
3. ミシガン「大きな急流」エルドマンズ出版、1982年、p. 53
4. アレキサンダー・ロバーツ、ジェームス・ドナルドソン編集「アンテ・ニーセンス・ファーザーズ」10巻。ミシガン「大きな急流」エルドマンズ出版、1979年、1: 90
5. 「アンテ・ニーセンス・ファーザーズ」2: 107

主は生きたもう

喜びをもって ♩=80-92

1. しゅ は い け り と し る か み の こ す く い ぬ し
 2. い け る しゅ は ひ と の か た き しん こう の も と し
 3. や さ し しゅ の み た ま へ い わ を も た ら し

く る し み や し よ り か ち い て し お う よ
 よ き み ち を て ら す み ち び き の ひ か り
 と わ の い の ち へ の あ ゆ み を み ち び く

作詩：ゴードン・B・ヒンクレー(1910—) ©1985LDS

教義と聖約76：22-24, 41-42

作曲：G・ホーマー・ドラム(1911-1985) ©1985LDS

ヨブ19：25

主は生きたもう

一、主は生けりと知る
 苦しみや 死より
 神の子 救い主
 勝ち出でし 王よ

二、生ける主は 人の
 よき道を 照らす
 固き信仰の 基
 導きの 光

三、やさし 主のみたま
 永久の 生命への
 平和を もたらし
 歩みを 導く

鳥のように 空を飛びたい

テリー・J・モイヤー

天 父が祈りを聞き届けてくださると母から聞かされたのは、たぶん7歳ぐらいの頃だったと思います。もっと以前から話してくれていたかもしれませんが、どうもそこは記憶がありません。

「それじゃあ、何かがとても欲しくて、それでぼくが本当に良い子になってほしいすれば、天のお父さまはぼくにそれをご下さるのかな。」

「そうよ、坊や。もし信仰を強く持つて、そのうえそれがあなたにとって良いことなら、天のお父さまはくださるのよ。」

1944年の暑い夏の夜、私はベッドに横になりながら、一体何を天父に一番お願いしようかと思案していました。もうひとり弟をお願いしようか。それもいいな。新しい野球道具かな。でもそれなら誕生日に何とかもらえそうだし。戦争が終わってお父さんが帰って来るというのはどうだろうか。そうだ、それがいい。でもお母さんはそのことで一生懸命にお祈りしているんだ。

そしてそのときから、7歳の私の心に、たったひとつの切なる願い、鳥のように空を飛びたいという、私にとっては重大なあこがれにも似た思いがわいてきたのです。

でもどうしてだめなんだろう。鳥は飛ぶのに。コウモリでさえ飛んでいるのに。

たこや紙飛行機、それにかぶと虫や蝶々だって飛んでいるんだ。ぼくにだってできるかもしれない。

きっとほかの子たちはうらやましがらうな。先生もびびくりしたり感心したりで声にならないんじゃないかな。それに友達のジョウイ・ヒルシュパーガーやジミー・ジョンソンもうらやましがらうと思うな。

弟のリンを起こさないように気をつけながら、私はベッドから滑り下りてひざをつきました。それから母がするように腕を組み、固く目を閉じました。そこで歯をくいしばり（大いなる信仰を示す確かなしるしだと思っていたので）、きつくしかめた顔に熱い思いを込めて、生まれて初めてたったひとりで声に出して祈りを捧げたのです。

「天のお父さま、ぼくは飛びたいのです。本当に、本当に心から飛びたいのです。ぼくが飛べるようにどうぞ祝福してください。ぼくを助けて飛べるようにしてください。ぼくはきっと良い子になります。本当です。アーメン。」

そこでひざを伸ばし、真っ暗な部屋の真ん中に自分の椅子を引いていってそこに上がりました。両手を大きく広げてもう一度つぶやきました。「どうぞ天のお父さま、ぼくを飛ばせてください。お母さん

は天のお父さまならできると言いました。ぼくもお父さまならおできになると知っています。」

そう言い終わると、私は腕を上下に激しくばたつかせ、だんだんスピードを増していきました。

それからどうなったかは想像がつくと思います。両腕が疲れてしまいました。

私はしゃがみ込んで考えました。きっと何か大切なことを忘れていたんだろうと思いました。腕をばたつかせている間に、椅子から飛び降りなければいけないんじゃないかと思ったわけです。

もう一度椅子に乗ると、今度は腕を前よりも激しくばたつかせながら、身体を上に向けて椅子から速くへ飛び下りました。

でも、あえなく墜落してしまいました。ほどなくして、ドスンという大きな音に驚いた母がドアのところに顔を見せました。

翌日もそのことばかりを考えていて、とうとうこんな結論を考えついたのです。天のお父さまはきっとぼくの信仰を試していらっしゃるに違いない。秘密の鍵は、続けて幾晩もお祈りをする事、それからお祈りの間にもっと歯をくいしばって顔もしかめることだろうと考えたのです。

私はやってみました。1週間ずっと毎



晩祈り続けているうちに、私の祈りと熱意は強くなっていきました。日曜日の夜にはもう大丈夫という確信がありました。

再び椅子に立って腕を広げ、今一度小さな声で主に願いを告げると、主が私の祈りを聞いて答えてくださり、私に飛ぶことを許してくださるといふ強い確信を得ていました。

私は腕を上下に激しく振っていきました。それから上に、遠くに飛びました。

でも、結果は同じでした。このときも2階の寝室から、どうしたのとお母さんが尋ねてきました。

どこが悪いのでしょうか。歯をくいしばったし、しかめっ面もしました。どうして実現しなかったのでしょうか。なぜ椅子から舞い上がって部屋の中をはばたけなかったのでしょうか。私はベッドに横たわりながら、長い間考えをめぐらせていました。

次の日、私が裏庭にいと母の呼ぶ声が聞こえました。

クロイチゴでした。車庫の裏手にある大きな野生のクロイチゴの木から実を摘んでおく約束をしていたからです。でも、翌年の1月のジャムを確保するために、8月の暑さ中にわざわざ毒々しい色をしたイチゴやそのとげと悪戦苦闘する気にはとてもなれません。

ちょっとした間だけ聞こえない振りをしていました。そのとき靈感が働きました。お母さんのお手伝いのために少しの時間も割くことができなるとすれば、私を飛ばせてくださいなどと、どうして神様にお願いできるでしょうか。

そのとき以来、私は一生懸命お手伝いをする少年になりました。クロイチゴを摘むことばかりでなく、たきぎも箱いっぱい切りました。玄関を掃除したり、テーブルの用意をしたり、買物もしました。それから前よりもっとクロイチゴを摘んで、とげで手や腕にひっかき傷を作ったこともあります。

もっともとお手伝いがしたいと言って母を困らせたほどです。こんな私の願いを主は断わることができましようか。この2週間、私は全身全霊で祈りを捧げ、大いなる信仰を表わし、善い行ないに満

ちた日々を送ってきたのですから。もちろんクロイチゴもかごいっぱい摘みました。今度はきつと飛べると思っています。その晩の祈りでこれまでのことをすべて主に語り終えた私は、真つ暗な寝室で再び椅子によじ登りました。今度こそ、今度こそ、今度こそうまくいくでしょう。

でもうまくいきませんでした。上へ遠くへ描かれるはずの曲線は、前と同じように下向きの曲線になり、今度もおなじみのドスンという音で終わりました。

私には理解できませんでした。これまでのすべての祈りと信仰と善行をもってしても、私は依然としてジョウイやジミーと同じただの人だったのです。何が欠けているのでしょうか。

そこで、どうしても飛びたいという私の願いには一言も触れずに、私は日曜学校の教師に祈りが答えられなかったという問題を投げかけてみました。その結果、次のレッスンでは祈りの方法と天父がどのように祈りに答えてくださるかを学びました。そして答えはありました。私がまったく主を信頼していなかったことに気がつかなかったというのも、私にとっては大きな驚きでした。

それまでの私は、たとえ羽ばたいて飛べなくても首を折らずに済むような低い椅子から飛び下りていたのです。失敗したら傷つく高さから飛び下りることで私の本物の信仰を表わすのを、主は待っておられるに違いありません。それこそ私の信仰を証明するものです。

それから相変わらずひそかに真つ暗な寝室で試みました。次の機会には、本当に高い所から飛び下りて本物の信仰を証明したい、それも見物人のいる明るい所で公開しようと思いました。

次の週の間ずっと準備を重ねました。信仰、祈り、そして母への惜しみない手伝いが続きました。土曜の午後にはすっかり用意が整いました。

私はリンとジョウイ・ヒルシュバーガー、それにジミー・ジョンソンに計画を説明しました。信仰と善い行ないについても話して聞かせました。また歯をくいしばったりしかめっ面をしてするお祈り、危険を冒してまで主を完全に信頼するこ

とについて説明しました。

それから車庫の屋根にかけたはしごを登り始めました。リンとジョウイとジミーは地上で心配そうに見ていました。

ジョウイは、私が気が狂ったと思ったそうです。彼には信仰とか徳行、祈りが理解できる道理がありません。

やがて車庫の屋根に上がって下を見下ろしました。屋根から地面を見下ろした眺めは、地上から見た眺めよりも遠く感じられました。

私が立っている場所の真下は恐ろしいクロイチゴのやぶで、下から見るよりもずっと高く広く見えました。するどいどげに覆われた大きくたけの高いイバラは、私が立っている所まで届きそうです。

次々にわき起こる疑いの気持ちを振り払わなければなりません。「うまくいかなかったらどうしよう。もし飛べなかったらどうしよう。クロイチゴの木の中に落ちたらどうなるのだろう。」しかしもうそんなことを疑ってはいけないのです。もしも疑えばすべての努力は水の泡です。

なぜなら疑いは信仰の反対だからです。そんな単純な理論を振りかざすと、恐ろしい気なクロイチゴのとげから身を守るものを取り除くことによって、私の揺るぎない完全な信仰が証明されるのだと意を決しました。

私はシャツを脱ぎました。ジョウイはこんなばかげたことは初めてだと思って、私の母に知らせに行こうとしたようです。

私の方はジョウイに、座って静かにするように言うのですが、とうとう彼は母の所へ言いに行ってしまうました。さあ私は急がなければなりません。

私は目を閉じました。そして、たとえどんな愚かな願いでも、その子が良い少年であって母親の手伝いをよくし、日曜学校にも出席しているとしたら、その祈りは答えられることを主ご自身にも思い出していたらどうしようと思いました。

それが終わると、いよいよ腕を羽ばたかせ、どんどん加速をつけていきました。そうして目をしっかりと閉じ、車庫の屋根から上向きに遠くへ飛びました。洋服も着ずに、大きな野生のクロイチゴの木

フロイチゴのいばらの木が下にあってもどうということはありません。私に十分な信仰さえあれば、車庫の屋根から飛んで空を羽ばたくことができるのです。



を越えて高く遠くへ飛んだのです。

目を開けると、台所のテーブルにあお向けに寝かされていました。医者ニコルス先生はちょうど帰るところで、どんなにとげだらけでも一面におい茂った「枕のようなもの」の中に飛び込んだのだから、骨の折れるわけがないなど言っていました。母が私の身体のあちこちにできた切り傷や引っかき傷を冷たい布でずっと拭いてくれていたその感触は今でも忘れられません。

ニコルス先生が帰ったあとで、母がびっくりしている友達を追い出していました。私には母の腕や手、顔にもたくさんの引っかき傷があるのが見えました。私を助けるために母がどうしたのかがよくわかりました。

母は特別やさしい笑顔を見せ、その腕にしっかり私を抱き寄せて静かに言いました。「戦いで受けた多くの傷により、私はあなたに名誉戦傷章を贈ります。それに勇気をたたえて青銅星章も贈りましょうかね。」

「ばかなことをしてももらえる勲章が

あるの。」私は母に尋ねました。「ぼくはばかだったと思うよ。」

「だれでもときどきそう思うものよ。私たちは間違いをするけれど、そこから何かを学ぶの。そうやって人生を送っていくものなのね。」母はそう答えました。

長い沈黙の後に私は疑問に思っていることを切り出しました。「お母さんは天のお父さまが祈りに答えてくださると言ったよね……。」

母が言葉を継いで言いました。「だからもうあなたは、天のお父さまが祈りに答えてくださるかどうかがよくわからないと言うのね。」母には私の考えていることがいつもわかっていました。

「もちろん天のお父さまは祈りを聞いて答えてくださるわ。」母はそう言いましたが、私にも母が言わんとしていることがわかりました。「たまにはあるけれど、私たちは自分のためにならないことをお祈りすることがあるのね。『みこころがなりますように』と言うのを忘れることもあるわ。そしてときには、静かだけれどはっきり『いいえ』という答えをく

ださるのよ。その『いいえ』も答えなのよ。そうでしょう。天のお父さまはいつも『はい』とは言えないでしょう。私の言っていることがわかるかしら。」

「ぼくもそうだろうと思う。でもお母さん、ぼくは本当に空を飛びたかったんだ。だから一生懸命やってみたんだよ。」

「ねえ坊や、いつの日かあなたのお父さんが海軍から帰って来たら、あなたの祈りは答えられると思うの。あなたとお父さんとで空港に行けば、お金を払って30分間飛行ができるのよ。天のお父さまがあなたの飛びたいという祈りに『はい』の答えをくださるにも、いろいろな方法があると思うわ。でもそれは、腕を羽ばたかせて車庫からクロイチゴの木に飛び下りてできることではないわ。」


すでに出血はどこも止まっていたましたが、どの傷口にも小さなばんそうこうが当てられていました。母も自分の傷の手当てをしながら私の方にほほえみかけ、それからわざと厳しい顔つきをして言いました。「それから、車庫の屋根からクロイチゴの木に飛び込むことについて言っておきます。いいですか、もしもう一度あんなことをしたら、あなたの名誉戦傷章を取りあげますからね。」

さて私の夢をじゃまするアナウンスが聞こえてきました。「ただ今、飛行機はハンブルグ国際空港に到着しようとしております。お手元のシートベルトをお締めください。」

過ぎ去った遠い日々の、空を飛びたいという幼い祈りがうそのようです。私の祈りの答えは、愚かな求め方をしていたあの頃には得られませんでしたが、後になって父親と一緒に小型飛行機で故郷の上空を飛んだときに実現しました。そして今、ドイツ・ハンブルグ伝道部への空路を大型ジェット機で飛行しているのです。

祈りの答えというものは、大抵は私たちが期待するような方法や時にはではなくて、不思議な方法で来るようです。

私は手元のシートベルトを締めると、心の中で簡単な祈りを捧げました。「父よ、7歳の少年の祈りを聞き届けてくださったことを感謝します。私に飛ぶことをお許しください感謝いたします。」



アイスクリームも 音楽も

ジョアン・C・ハンセン

私はアイスクリームが大好きです。でも、どんなアイスクリームでもよいというわけではありません。私の好みのアイスクリームは、何よりも最高のものでなければならないのです。家の近くに小さな店がありますが、そのアイスクリームは世界中で一番なめらかで舌にとろけるような最高のものではないでしょうか。一口で、もうすっかり私を夢中にさせてしまうほどです。ほかのアイスクリームに比べて少し高いけれど、私にはそれだけの値打ちがあると思っています。

あなたにもその値打ちがあることを知ってほしいのです。神の子らの中でもえり抜きで、最良の人生を送るにふさわしいあなたなのですから。これはあなたが耳を傾ける音楽についても言えることです。最良の音楽を慎重に吟味するだけの価値があるのです。それだけにむずかしい問題もいくつかあるようです。何が最良かをみきわめるにはどうしますか。またどうやって選ぶのでしょうか。

最良の音楽を選ぶのは、アイスクリームを選ぶのとまったく違ったむずかしさがあります。単に個人の好みの問題ではないからです。もしかしたらあなたは伝統的な民族音楽が好きで、音楽の中ではそれが一番だと考えていても、友達はクラシック音楽に心酔して最高だと思っているかもしれません。しかし伝統的な民族音楽にも善し悪しがあるように、クラシック（ジャズやロックでも同じです）にもすばらしいものとそうでないものがあることは事実です。

しかし私なりに、どんな音楽を聞くかを選ぶうえで役立つと思われる基本的な法則があります。それはおそらくあなたにも役立つのではないのでしょうか。

1. 演奏家が自分の技術を認識している場合、多分私ならその音楽を聞きたいと思うでしょう。単に歌の内容がおかしいとか、みだらなものを扱っているというだけで、あるいはグループの名前が奇抜だったり、めずらしい楽器や変わった楽器を使うという理由で、上位にランクされている音楽グループがたくさんあります。それだけでは音楽を知っていることにはならず、ごまかしと言えましょう。そのような演奏グループの人気の長続きしないことは、この目で長年見てきてよくわかります。それはグループが解散した後でも、最新のアルバムやテープを買ってまで繰り返し聞きたいと思うような音楽的な質の高さを彼らが持っていない

からです。私は次のような音楽の資質を求めているのです。

心地よい響きの音楽 — グループの奏でる楽器や音声があまりにも耳ざわりだったり、音楽的でないために、聞くたびにたじろぐような思いをしないもの。

興味ある和声と調和のとれたコード進行 — グループの演奏が数少ない同じ和音の繰り返しではなく、そこに獨創性や新鮮さが見られるもの。

言葉に詩的な要素がある — 私の好きなのは、詩の中に性や覚醒剤や暴力をちらつかせるのではなく、豊かな想像力と知的な言葉遣いで表現しているもの。

メンバーが健全な音楽の勉強と訓練を積んでいる音楽グループの作品には是非耳を傾けたいと思います。彼らの音楽には人間の声に対する理解と、グループで使っているシンセサイザーやそのほかの楽器の性能に関する知識が表われています。かつてすばらしい音楽家が私に語ってくれたことがあります。「正しい意味で音楽の基本的なパターンを変化させて創造的なフレーズを生み出すためには、その基本についてよく知らなければなりません。」ときどき私は、基本が何かも知らず、どう変化させたらよいのかもわからないままに在るグループが多すぎるように思うのです。

2. とにかく新鮮な驚きを与えてくれる音楽は楽しいものです。新鮮な和音の構成やリズム、響きは大好きですし、喜びでさえあります。この考えは、私が述べた第1の法則にかなり近いものです。創意工夫に富み、しかも音楽理論の基本を習得していることが一目瞭然で、さらにその基礎の上に自分たちのものを賢明に築きあげているグループには、喜んで耳を傾けます。

ときどき、つい最近聞いた曲によく似ている歌をまた同じグループが歌っているなあと思うことがあります。彼らはひとつの音楽の型にはまり込んで、決してそれを壊そうとは思ってないのです。私はそういうものに驚きや喜びは感じませんし、再びそのグループに耳を傾けようとも思いません。

3. レコードやテープを売るために、

新聞や雑誌、ラジオ、テレビなどでどんなに大々的に宣伝されても、私はあまり乗り気にはなれません。

私は新聞やテレビの広告を実に注意深く研究してきましたが、最高に素敵なレストランの広告などというものをほとんど見たことがありません。良い情報は口伝えによって速やかに広がるものです。音楽にも同じことが言えると思います。グループやレコードを売り込む責任者に、それらを売るだけの価値が掛け値なしにあるかどうかの確信がない場合には、広告のキャンペーンはまず、消費者に買いたいという気持ちを持たせることから始めるに違いありません。

グループが本当にすばらしければ、友人やラジオのディスクジョッキーの口から、あるいは新聞記者から自然と耳に入るでしょう。私はそうやって好きなものを見つけてきました。

4. 私にとって一番大切な法則と言えば、もし曲に歌詞があるなら、その内容が私にとって良いものでなければならぬということです。私は次のように自問してみます。「それは私を高め、成長させてくれるものか。私に新しい思考を促し、古い考え方も新しい角度から見直させるものだろうか。美しい言葉と色調で描かれているか。それを耳にして、心が和らぎ、穏やかな気持ちになるだろうか。」もしこれらのうちひとつでも当てはまるならば、私にとって価値あるものです。

私は自分の心を和らげる音楽と神経質にさせる音楽とでは、大きな違いがあると断定しました。それは歴然としていると思います。しかし私は強烈なリズムでテンポの速い音楽からも、慰めを受け心を静めることができます。テンポの速い音楽でも自分のためになると思うものを聞いたり踊ったりすると、自分なりの方向性を見だし、決意や平安さえも感じるのです。現状の自分から解放されたいという圧迫は感じません。

私は現代の音楽がある意味で、目覚めている時間のほとんどにわたって私たちを包み込んでしまう、言わば音楽の寝袋になっていることが実に多いと思います。

ある音楽から慰めを見いだすことがあっても、音楽を世の中からの隠れみのにしたり、痛手や怒り、落胆、欲求不満の逃げ道に使ってはなりません。あなたの感情をわきへ押しやってしまうのではなく、むしろ表現することで、音楽はあなたの役に立つのです。チャレンジに正面から立ち向かうことが、それをより一層明確に理解する助けとなります。これこそ真の成長です。

あなたが耳にする音楽がどのような影響を及ぼしているかを自問し、吟味してみてください。妙に神経質にしたり、不安感や混乱を与えていないでしょうか。音楽ほど説得力を持つものはありません。音楽ほど人の魂を高揚させ、奮い立たせ、あるいは欺くものはないでしょう。これほど強力な手段を敵対者の手に渡してよいものでしょうか。

しばらく前のことですが、車を運転しながら地方のラジオ局が流すいわゆる「新しい音楽」を聞いていたことがあります。そこでは殺人を奨励するような歌が15分も続き、それから性をあからさまに扱った歌を15分間聞かされました。もともとこれが典型的な15分番組というものではありませんが、私たちの標準に合わない音楽が流れてきたら、そのときはいつでもラジオを切らないといけません。暇つぶしにすることならほかにたくさんあるはずですが。私ならもっと慈愛にあふれ、しかも有能な人物に成長できるようなことに、時間を使いたいと思います。

私たちは皆いつ音楽のスイッチを切るべきかを認識できるようにならなければなりません。真に良い音楽と言われるものはすべて耳を傾けるべきですが、くだらないことで私たちの心を騒がす理由などまったくないのです。

アメリカのユーモア作家マーク・トウェーンは次のように語ったと言われています。「良書を読まない人はそれを読めない人よりも優位に立つことはない。」この考え方は次のように音楽にも当てはめることができると思います。「本当に良い音楽を聞かない若い男性と女性は、それを聞くことのできない人よりも優位に立つことはない。」

